公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成26年10月1日発行（毎月1回1日発行） 通巻546号

ハンドボール

OCT.2014 No.546

特集

第5回 女子ユース世界選手権

第14回 男子ジュニアアジア選手権

第65回 全日本高等学校選手権大会

第27回 全国小学生大会

［表紙写真］第１４回男子ジュニアアジア選手権の日本代表。３０年振りに男子ジュニア世界選手権の出場を決めた。

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

販売から賃貸管理までトータルサポート

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方の将来設計において、不動産を用いた資産づくり・将来的な安定収入を得ていただくご提案をさせていただいております。

2014年10月には、自社ブランド『 YURIKA ROSE 』(ユリカ ロゼ) シリーズをスタートさせます！

代表取締役　青木 理恵

http://yurika-co.jp/

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188

再度「U-12のゲーム様式」について

公益財団法人 日本ハンドボール協会常務理事 普及指導本部長 **角 紘昭**

ハンドボールに限らず、年少の子供たちのボールゲームの様相は、その発展に一定の段階が見られることは一般的によく知られています。

すなわち①一斉にボールに群がる「だんご型（密集型）」②パス、ドリブルでゴールに向かい、それを追ってゆく「縦長型」③横の空いている味方にパスが出来るようになる「横長型」と発展していきます。この①～③までのゲームを十分経験させてから、二人、三人で攻めたり守ったりすることを考えさせる段階に入るわけです。このあたりから（～12歳）正確なパス、シュート、素早く相手を追うための足さばき、かわすための体使い等々、いわゆる正しい習慣（Good Habit）づけを徹底しておくことが必要であります。

そのために、NTS内容検討委員会で、U-12の段階については普及、指導、強化の観点に立ち2004年より指導内容の検討を進めてきました。

2012年に立ち上げた「U-12ゲーム検討委員会」では、少年期の子供たちがハンドボールの魅力を十分に味わいつつ「正しい習慣（Good Habit)」を身につけ、将来にわたって発展していくために

{ ・正確な基礎基本の技術の習得　・正確で素早い判断力、多面的能力の養成
・ハンドボールにおける広がりと奥行きの感覚の養成　・1対1の強さの養成 }

を具現化できる「U-12ゲーム様式」の2年間試行をスタートさせました。

現在、試行を進める中で固まってきている新しい様式の概要は次の3点です。

1．36×20メートルのコートで3セット制（1セット8分、総得点制）

8分間はスポーツテストの「シャトルラン」の平均値から割出し、全力で走りながら判断したり、プレーしたりすることに最適な時間。

2．ゲームはキーパーからのスローで始まる。

キーパーからのスタートは、より速く、切れ目のないゲーム展開を促すことと、キーパーからの素早いスローがコートプレーヤーの素早い位置取りの必要性を自覚させる。

3．U-12の指導理念としては「早いゲーム展開の中で積極的な防御の採用」

・正確で素早い判断力　・ハンドボールにおける広がりと奥行きの感覚の養成

・1対1の強さの養成

全国の指導者の方々には、この新しいゲーム様式の意図するところを十分にご理解いただき、よりスピーディなゲーム展開と、日常の練習で「正しい習慣（Good Habit）づけ」の徹底を図っていただきますようお願いいたします。そして、子どもたちがこの時期にハンドボールの魅力や楽しさを十分体感し、将来にわたってハンドボールを続けてゆくきっかけになることを願っています。

今後は、「U -12ゲーム検討委員会」で2年間試行でのご意見を参考に、さらに細部を検討して本格実施案を決定、全国へ情宣を進め、27年度4月から完全実施の計画です。

第5回 女子ユース世界選手権

5th Women's Youth(U18) Handball World Championship

■最終順位

優勝：ルーマニア	9位：スウェーデン	17位：マケドニア
2位：ドイツ	10位：クロアチア	18位：チュニジア
3位：デンマーク	11位：ポルトガル	19位：パラグアイ
4位：モンテネグロ	12位：アルゼンチン	20位：アンゴラ
5位：韓国	13位：ノルウェー	21位：カザフスタン
6位：オランダ	**14位：日本**	22位：中国
7位：ブラジル	15位：ハンガリー	23位：コンゴ共和国
8位：ロシア	16位：フランス	24位：ウズベキスタン

主　催：国際ハンドボール連盟
大会期間：2014年7月20日（日）—8月3日（日）
開催都市：スコピエ・オフリド・ストルミツァ（マケドニア）

女子ユース監督　石川 浩和

第5回女子ユース世界選手権大会のご報告

女子ユース世界選手権大会の日本代表チームの監督を仰せつかって、最初に考えたのは、言うまでもなく、〈どういうチーム編成にすべきか〉と、〈どういうゲームコンセプトで戦うべきか〉でした。これまで言われてきているのは、「日本の選手は器用なので、欧州チーム相手でも、ある程度は得点できる」「日本チームは、途中まで善戦しても、試合終了間際のスタミナ切れで、負けてしまう」という言説です。この長所と短所をどのように活用しどのように補強するか、短期間の急造チームであり、全員顔を揃えて練習できる回数も僅かという代表チームのもつ脆弱な基盤に立って、少しでも効果的なチーム編成と基本的な戦法を決定しなければならないのが最初の課題でした。それに関して、津川強化本部長から「昨年のセルビア世界女子選手権で、日本女子チームのディフェンスがかなり通用したので、どのカテゴリーでもそのディフェンススタイルを採用する、ユースチームもそうして欲しい」という統一骨子のご指示がありました。

それは、たまたま6年前から私のチームで行っているディフェンスシステムと根本のところで一致するものでした。非力な私がユースチームの監督に指名されたのは、あるいはそれも理由の一つだったのかもしれないと思いもしました。

4月・5月の2度にわたる選手選考合宿の結果、次のように判断することになりました。第一に、チームの主軸として大型選手を選抜すべきですが、成長の過程にある年齢のせいで、大型選手特有の状態（身体各部の成長度のバランスがまだまだ不均衡で、とくに足腰のスタミナが不十分だという発展途上の状態）が共通してみられました。そこで、身体の大小・身長の高低にかかわらず、ディフェンス技術の高さを選抜基準に据えました。それに加えて、オフェンス強化のためにシュート技術の高い選手を、バックコートプレーヤーとして3名、サイドプレーヤーとして4名、選ぶことになりました。6月の合宿で、本格的にディフェンス練習に取り組み、気合い十二分の辻コーチが全体的な指導に当たってくれました。私はもっぱら細部の直接指導に徹しましたが、この任務分担が効果を発揮したと考えております。東京女子体育大学や日本体育大学などの大学チームの協力も得られて、練習試合を通して、そこそこのレベルまでできるという手応えを掴めたのもこの時の成果でした。

それは7月の合宿で、男子の浦和学院高との練習試合でも感じられ、選手も少しずつ自信を抱きだしたようでした。

7月に開催地マケドニアに入りましたが、気候も食事もさほど問題なく、選手たちもよく適応していたと思います。彼女たちのチームワークもよく、その方の懸念はまったくせずにすみました。また、貝沼ドクターと宿利トレーナーのサポートも十分に強力でした。

予選リーグは、初戦のパラグアイと次戦のコンゴに勝利することが絶対の最低目標であることを、選手たちがよく理解してくれて、しばしば生じる審判の不可解な判定にもめげず、所期通りになりました。

第3戦からの欧州勢（ノルウェー、ロシア、ハンガリー）との戦いは、勝敗以上に内容のよい試合だったと選手をほめてやりたいと思います。ノルウェー戦を引き分けたことは、ノルウェーがロンドン五輪のメダル獲得国だったせいか、現地のメディアやファンを驚かせたようですが、日本選手には自信につながり、ロシアとの3点差の善戦、ハンガリーとの1点差ゲームをもたらしました。大会HPに掲載されたロシア監督の「今日は大変な試合だった。日本の選手はとても素早く、偉大なチームのようなプレーだった。この試合に勝てて良かったよ。」というコメントはお世辞ではないはずです。

予選リーグ突破の要因は、第一にディフェンスがかなり効果的だったこと、第二に頻繁な選手交代で終盤のスタミナ切れが起きなかったことだろうと分析しております。

エイトファイナルは初戦の韓国戦で出端を大きく挫かれ、それが後々まで尾を引いたと思います。何しろ、韓国はスタッフだけで9名が帯同するくらいで、非常に充実した準備の上で大会に臨んでいました。その分析力は高く、こちらの戦い方は丸裸にされていたと言っても過言でありません。まさに国情の差でした。

フランスに勝利して14位となりましたが、結局日本に不足しているのは、世界大会に臨むグランドデザインではないかと思います。国内大会を優先するのはやむをえないとしても、国際大会をどう位置づけるのか、東京五輪を控えてハンドボール界は他の競技界に負けない意識作りが成されているのか、他の競技界に匹敵する体制作りが成されているのか、すべてを協会役員にゆだねて上意下達のまま、最終責任を協会役員にだけ押し付けていていいのか、と愚考しています。

最後に付記したいのは、春夏連覇をかけたインターハイと日程が重なる中で、代表辞退をせず、疲労を厭わずに全力を尽くしてくれた選手3人への感謝と、それらを慮ってくださり、細かいご配慮を何度も戴いた津川強化本部長、そして私の不在を案じて本校チームの試合にさりげなくご足労くださった市原副会長と川上専務理事に心内で合掌して感謝したいと存じます。

女子ユースキャプテン　谷 華花（大阪体育大学）

女子ユース世界選手権に出場して

マケドニアで開催された女子ユース世界選手権。インターハイと日程が重なってしまったため、昨年のアジア選手権とは大きく変わったメンバーで大会に臨みました。体格、パワー、スピードなど、あらゆる面で私達より優れている世界の選手たちと互角の勝負をするため『Total Mobility』をチームの合言葉に、直前合宿を含めた4度の合宿を組んでいただき練習に励みました。特に意識したのが、女子日本代表チームの方も行っているアグレッシブなDFです。合宿中には大学生や、世界の大きな相手を想定し浦和学院高校の方とたくさん練習試合をさせていただき、DFを集中的に練習しました。そのDFが機能したと感じたのは、予選リーグのヨーロッパ勢との試合です。高い位置でしつこくプレッシャーをかけ続け、間を突破してくる相手を全員でフォローして守りました。しかし、どの試合もあと一歩のところで勝ちきれませんでした。

決勝トーナメントでは、韓国に大きく差をつけられて敗戦したり、予選リーグで同点だったノルウェーに勝ちきれなかったりと最終的に14位で大会を終えました。前回の8位という成績を目標としていただけに悔しさもありましたが、小さな日本人でもヨーロッパの相手に十分勝負できることが証明できた大会でした。

私達が試合に集中できたのは現地にて、たくさんのサポートをしていただいたからこそです。支えてくださった多くの方に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、アジア選手権に引き続きともに戦ってくださった石川監督、辻コーチ、宿利トレーナー、貝沼ドクター、本当にありがとうございました。

戦　評

■7月20日（日）：Bグループ

日本　29（16－12, 13－13）25　パラグアイ

第５回女子ユース世界選手権大会の日本の初戦はパラグアイと対戦となった。日本はディフェンスからスタート。先取点はパラグアイのカットインプレー。日本はすぐに藤田のサイドシュートで同点に追いつく。そして、園の速攻で２対１と逆転。しかし、パラグアイも再びカットインを決め２対２の同点にする。その後すぐに園が 7mT を取り３対２。谷の速攻で４対２として、徐々にリードを広げていった。前半６点リードをした時もあったが、悩ましい審判の判定にディフェンスの基準が定まらずに 7mT や足が止まった攻撃で逆速攻を許し 16 対 12 で折り返す。

後半になるとますます強引な１対１を仕掛けてくるパラグアイに対して、日本のディフェンスもフリースローラインより前で積極的に当たるディフェンスを行ったが、オーバーステップとディフェンスの評価の基準が定まらない判定に選手が迷い、一時は１点差まで追い上げられた。しかし、眞方・藤田のサイドシュートや三橋のカットインなどで加点し、なんとか４点差のまま逃げ切るという大変タフな試合であった。選手は初戦の緊張と審判の不可解な判定に戸惑いながらもディフェンスとサイドシュートでよく頑張った。

［個人得点］藤田：７点、河原畑：５点、園：４点、川上・谷・眞方：３点、三橋：２点、初見・近藤：１点

■7月21日（月）：Bグループ

日本　36（19－9, 17－18）27　コンゴ共和国

日本は、GK 岩見、CP 園・河原畑・斗米・初見・谷・藤田でスローオフからのスタート。立ち上がり、斗米のカットインで 7mT を取り、河原畑が決め、同じく斗米の速攻で２対０とする。その後、同点・１点差リード・１点差ビハインドと一進一退の攻防を繰り広げた。前半 16 分すぎ、青のロングシュート、三橋のカットイン、初見の速攻などで８連取し、15 対８とする。その後も藤田・川上の速攻・谷のミドルシュートで 19 対９で前半終了。

後半、日本は頻繁にメンバーチェンジを行ったがディフェンスの連携が不安定で立ち上がり戸惑いがあったが、徐々にディフェンスが機能してきた。このまま日本のペースに持ち込みたいところであったが、審判の判定にもかなり戸惑いなかなかリズムがつかめなかった。14 分すぎ亀井が 7mT を取り、谷が決めた。続いて真方のサイドシュート速攻ミドルシュートの３連取で 29 対 20 とした。タイムアップ直前鈴木が渾身の力を振り絞りロングシュートを決め勝利した。

［個人得点］眞方：7 点、河原畑・藤田：5 点、谷：4 点、川上・三橋・鈴木：３点、斗米・青：２点、初見・村松：１点

■7月23日（水）：Bグループ

日本　33（18－15, 15－18）33　ノルウェー

ノルウェーとの対戦は、ディフェンスからスタート。先取点は、藤田のサイドシュート。開始７分で２対２。日本は真方・川上の速攻などで加点するが、相手も速攻・ロングシュートで反撃し、13 分までは一進一退の攻防を繰り広げた。ラスト 10 分を切って相手が退場になり、その間に初見のポストシュート、藤田のサイドシュートで点差を４点にした。29 分過ぎて初見が退場したが、ディフェンスが踏ん張り前半を 18 対 15 と３点差リードで終了。

後半、日本は５人でスタート。河原畑のロングシュートが決まり、この勢いでペースを掴み切りたいところで速攻からのカットインを仕掛け相手が退場。河原畑が 7mT を決め２点差に離した。その後、１点差・同点・２点差リードと一進一退の攻防が続いた。ラスト２分を切り藤田のサイドシュート、近藤の速攻で再び２点リード。ラスト１分で相手がチームタイムアウト。29 分 12 秒で相手のポストシュートが決まり近藤が退場。すかさず日本はラスト 30 秒でチームタイムアウト。５人で攻撃を仕掛けたが攻めきれず相手ボールになり、ラスト 10 秒ボールを繋がれ、ラスト２秒でサイドシュートを決められ 33 対 33 の引き分けで試合終了となった。

［個人得点］河原畑：９点、藤田：７点、三橋・園：４点、谷：３点、初見：２点、川上・斗米・近藤・眞方：１点

■7月24日（木）：Bグループ

日本　30（16－17, 14－16）33　ロシア

日本のスローオフからのスタート。硬い立ち上がりでロシアに先取点を奪われるが、藤田のサイドシュートで１対１。日本のディフェンスが噛み合わない間に３連取されるが、日本もディフェンスを立て直し追い上げて前半 11 分河原畑、谷、近藤の３連続得点で８対８の同点。17 分過ぎ村松の速攻、河原畑の 7mT、鈴木の２連続ロングシュートで 13 対 10 と３点リードするが、ロシアに４連取され、13 対 14 とリードを許した。このあと同点・１点リード・１点ビハインドという攻防が続き、前半 16 対 17 で終了。

後半、立ち上がりロシアに２連取されるが、日本も粘りのディフェンスからロシアに食らいついていき園のサイドシュート、速攻、河原畑の 7mT で再び同点。ラスト 10 分過ぎたところで速攻のノーマークを２本連続で外してしまい、勝ち越すチャンスを逃す。逆に相手に４連取され、29 対 33 と４点リードされるが、最後まで諦めることなくラスト２分藤田から河原畑へのスカイプレーを決め３点差。その後、１点でも差を縮めようと速攻を仕掛けたが 30 対 33 で試合終了となる。

［個人得点］河原畑：7 点、鈴木：6 点、谷：4 点、村松・園・眞方：３点、藤田：２点、三橋・近藤：１点

■7月26日（土）：Bグループ

日本　26（10－14, 16－13）27　ハンガリー

予選リーグ最後の試合。日本はディフェンスからのスタート。先取点はハンガリーのサイドシュート。日本もセットオフェンスから斗米のステップシュートで１対１。その後、ディフェンスからリズムがとれずハンガリーに３連取されるが、日本も谷のカットイン、藤田のサイドシュート、河原畑の 7mT で３連続得点し、１点差まで追い上げる。前半 10 分までにイエローカード３枚となり、メンバーチェンジをしながら流れを変えようとするが、前半 21 分過ぎて７対 13 の６点差をつけられてしまった。ここで日本はタイムアウトを取り、前半の残り時間でやるべきことを確認した。初見の速攻、鈴木のロングシュート、川上の速攻で追い上げ 10 対 14 で前半終了。

後半開始５分過ぎにハンガリーの退場が続き、相手はゴールキーパーを外し、６人のコートプレーヤーで攻撃してきたが、ゴールキーパー岩見の好セーブから村松のロングシュート、速攻、三橋、藤田の速攻、河原畑の 7mT で、後半 12 分過ぎには、この試合初めて 19 対 17 とリードするが、その後シュートミス、退場などがあり再び

戦　評

20分には4点ビハインドとなってしまった。しかし、日本の粘り強いディフェンスからの速攻、ゴールキーパー岩見の7mTのセーブなどで25分を過ぎてからは日本のペースとなる。ラスト3分にはハンガリーが7人攻撃をしてくるが日本は守り團の速攻で1点差まで追い上げた。ラスト1分、日本はディフェンスから速攻を仕掛けたが、ミスで終わる。ラスト40秒、マンツーマンディフェンスでボールを奪いに行ってインターセプトに成功したが、シュート直前にタイムアップになってしまった。日本はBグループ4位で通過した。

［個人得点］河原畑：6、三橋：4、谷・藤田・團：3、初見・村松：2、川上・斗米・鈴木：1

■7月28日（月）：Eighth Final 1回戦

日本　34（12－22, 22－20）42　韓国

決勝トーナメントの初戦は、予選Aグループ1位の韓国との対戦。GK岩見、CP團、河原畑、斗米、初見、谷、藤田でスローオフからのスタート。先取点は、韓国の速攻。日本もすぐに河原畑のカットインで1対1。しかし、高さのあるポスト、1対1のスピードに日本のディフェンスが機能せず前半10分で3対8とされてしまった。その後もチャンスがあったが、シュートミスが目立ち、なかなか日本のペースに持っていくことができず12対22で前半を終える。

後半は、ディフェンスを立て直し、藤田のサイドシュート、團、三橋の速攻で日本の流れに持っていきたいところであったが、日本のミスから相手に速攻を許し3連取される。5分が過ぎたところで相手の連続退場を誘い、藤田、谷の速攻、團のサイドで追い上げたが、韓国のスピードある速攻、1対1の強い押し込みなどでなかなか点差を詰められなかった。18分過ぎ、谷、近藤、三橋の速攻、斗米のポストシュートで4連続得点を挙げ29対36となるが、韓国もすぐに速攻、サイドシュートで5連取した。しかし、日本も最後まで諦めず、ラスト3分切ったところで三橋、團の速攻、藤田のサイドシュートで追い上げたが34対42で試合終了となった。

［個人得点］谷：9点、三橋：6点、藤田・團：4点、河原畑・鈴木：3点、川上・初見・斗米・近藤・青：1点

■7月30日（水）：Eighth Final 9－16位戦

日本　32（14－20, 18－18）38　ポルトガル

予選Dグループ2位のポルトガルとの対戦は、昨日と同じスターティングメンバーでディフェンスからのスタート。立ち上がり團が速攻で7mTを取り、河原畑が決めて1対0。その後も初見のポストシュート、藤田のサイドシュートで3対1とするが、日本のノーマークシュートミス、ディフェンスでの連携ミスなどでリズムがとれない間にポルトガルに6点連取されてしまい20分で9対16となった。日本も速攻で差を縮めたいところだったが、シュートミスが続き14対20で前半終了。

後半、ディフェンスから速攻の形にもっていきたいところであったが、ポルトガルの重くて早いオフェンスに押し込まれ、リズムがつかめなかった。15分過ぎにはポルトガルに5点連取されてしまい24対36となる。ラスト10分過ぎてから、川上のサイドシュート、三橋のカットイン、藤田のサイドシュートで追い上げたが32対38で試合終了。

［個人得点］藤田:12点、河原畑:5点、川上・谷・三橋:3点、初見・斗米：2点、村松・鈴木：1点

■7月31日（木）：Eighth Final 13－16位戦

日本　32（14－10, 18－16）26　フランス

フランスとの対戦は、昨日と同じスターティングメンバーでディフェンスからのスタート。開始57秒斗米のミドルシュートで日本が先取点。相手にサイドシュートを決められ1対1。しかし、フランスにイエローカードが2枚続けて出て、河原畑の7mT、カットイン、三橋の速攻で3連続得点をして4対1とする。中盤に日本のシュートミス、パスミスなどのミスが続き、18分過ぎには8対8の同点になる。しかし、その後日本は、河原畑のカットイン、ロングシュート、村松のステップシュート、團の速攻、初見のポストシュートで5連取し、13対8と5点リードして試合のリズムをつかんだ。14対10で前半終了。

後半も、フランスのミスからの速攻、ディフェンスでの粘り、オフェンスでのリズムを作り、藤田から河原畑へのスカイプレーが決まるなど、8分には21対15と6点リードする。このまま日本のペースでいきたいところであったが、シュートミスなど引き離すところでのミスが起こりフランスに点差を縮められる。ラスト10分を切り、2点差まで詰められるが、日本は村松のロングシュート、團の速攻などでリードを広げる。ラスト2分、28対25となったところでタイムアウトを取る。やるべきことを確認して再びコートへ。ゴールキーパー岩見の好セーブが光り、藤田のサイドシュート、速攻、團のサイドシュート、三橋の速攻で32対26で勝利した。

［個人得点］河原畑:8点、藤田・村松・團:5点、三橋:3点、初見:2点、谷・斗米・鈴木・青：1点

■8月2日（土）：Eighth Final 13－14位戦

日本　30（15－14, 15－20）34　ノルウェー

予選リーグで引き分けているノルウェーと二度目の対戦。インターハイに出場する3人の選手とドクターが大事な仕事で前の試合終了後に日本に帰国したため、選手13名、スタッフを入れて16名で戦った。日本は、ディフェンスからのスタート。立ち上がりノルウェーにカットイン、速攻で0対2とされるが、青のロングシュート、村松のミドルシュートで追いつくと、15分までディフェンスで粘り、一進一退の攻防となり9対9の同点とした。ゴールキーパー岩見の好セーブもあり、その後も流れは日本のペースだったが、ノーマークシュートミスを重ねてしまい、なかなか点差を広げることができなかった。ラスト5分で三橋のカットイン、團、藤田の速攻で3連取し15対14で前半終了。

後半、ノルウェーのダブルポストになる攻撃でポストシュート、ミドルシュートを決められるが、日本もクイックスタートから三橋のサイドシュート、谷のカットイン、團、藤田の速攻で4連取し、22対20と2点リードした。後半10分過ぎからディフェンスの隙をつかれたり、日本の速攻のミスなどでノルウェーに4連取されてしまい2点のビハインドとなってしまった。中盤からスタミナも落ちてしまい、速攻での加点が途絶えて、ノルウェーに4連取させてしまった。ラスト5分で26対31となってしまったが、日本は最後まで諦めず全力を振り絞って戦った。藤田から近藤へのスカイプレー、三橋のポストシュート、最後は藤田のサイドシュートで30対34で試合終了となった。この大会14位となった。

［個人得点］藤田・近藤：5点、村松・團・青：4点、谷・三橋：3点、川上・鈴木：1点

第14回 男子ジュニアアジア選手権

14th Asian Men's Junior Handball Championship

【最終順位】

優勝：カタール
2位：韓国
3位：日本
4位：イラン
5位：サウジアラビア
6位：クウェート
7位：シリア
8位：イラク
9位：バーレーン
10位：ウズベキスタン
11位：オマーン

【個人表彰】

■ Most Valuable Player
徳田新之介（日本18）
■ Best Left Back
Amir DENGUIR (QAT17)
■ Best Center Back
Pouya Norouzinezhad (IRI7)
■ Best Right Back
Tae Hyun HA (KOR33)
■ Best Pivot
Mojtaba AL-SALEM (KSA57)
■ Best RightWing
安倍竜之介（日本11）
■ Best Left Wing
Jaeseo lim (KOR22)
■ Best Goalkeeper
Yusuf RASHED (QAT1)

日本代表は30年振りに 男子ジュニア世界選手権の出場権を獲得！

主　　催：アジアハンドボール連盟
大会期間：2014年8月2日（土）－8月14日（木）
開催都市：タブリーズ（イラン）
競技方式：予選リーグ（1回戦総当たり）の後、各グループ上位2チームによる決勝トーナメントにより順位を決定する。上位3チームが、2015男子ジュニア世界選手権に出場出来る。

男子ジュニアアジア選手権団長報告

団長　近森 克彦

イラン第4の北部の都市タブリーズで独特な宗教的な開会式で始まった今大会、結果は優勝・カタール、2位・韓国、3位に最終戦で地元イランに接戦の末勝利した日本となり、上位3ケ国が来年ブラジルで開催される世界選手権の出場権を得ました。

ユースからジュニアと続いての世界選手権出場は初めてで、今後の強化においても意義のある結果で、世界大会ではベスト16以上を目指せるチームになったのではと感じます。後述しますが、これからユース、ジュニアを含めたアンダーカテゴリーの強化はますます必要で、将来代表が強くなるための大きな点であると思います。

ただ今大会を観ての実感ですが、主力選手のケガの回復が思わしくなく、各試合で波のあるプレーだったこと、準決勝の韓国戦前日に2～3人の選手が原因不明の嘔吐によりチームがベストコンディションになれなかったことなど考えますと、優勝を十分に狙えたのではと残念に思います。

過去でしたら、このような状況下であれば出場権の獲得は厳しかったに違いありません。ただこのチームの選手たちはユース時代から蓄積があったことで、最低限の成績を残せたのです。

常に万全な状態で大会に臨むことが出来ればそれにこしたことはありませんが、なかなかその様にいきません。チームスタッフ、ドクター、トレーナーが協力して選手の状態の把握と指導に努めてゆく事が必要かと思われます。怪我の防止、体調を維持するため、食生活のアドバイザーとして「スポーツ管理栄養士」の活用を考えてみるべきではと思います。大会に同行しなくても、普段からの指導をもって選手個人に自覚を持たせることが出来る様にすれば、改善につながるのでは。

さて、今大会を終え、次の項目「①韓国の復活と個の強化、②アジアの今後は、③日本の課題」で総括してみます。

①韓国の復活と個の強化

2012､13年のチームは客観的にみて統制もとれておらず、勝負に対しての貪欲さも見られなかったが、先のジュニア、ユースの女子の世界選手権での成績に表れている様に、ギアを入れ替えて、大変な変わり様でした。率直に言うと、前の反省から相当の質と量のトレーニングに時間を費やしていたことが表れていること、試合はもちろん、ウォーミングアップにおいても一つ一つの基本的動作に厳しさや力強さに以前と大きな差異が見られました。短期間にこれほど精神的・肉体的変化の裏には、「個」の追求という基本に戻り、集中的かつ徹底的に練習をこなしてきたに違いないと思われます。

日本の場合、集中的な強化スケジュールが組めない背景があり、どうしても戦術に偏りがちですが、その中でも「個」の強化という基本を追求すべきでしょう。厳しい練習下でとっさの「ひらめき」「反応」が身につき、応用力が高まるのではと思われます。

②アジアの今後は

中東の笛問題が鳴りを潜めて以来、ユースからジュニアの強化過程を見ますと、スタッフの交代、年代別強化の点で今後は帰化選手を積極的に登用しシニアとその下の指導を一貫しているカタール、個の強化から再び上昇した韓国が最大のライバルであると思います。サウジアラビア、イランといった国の強化は見えづらいのですが、この5ヵ国が中心となるであろうと見えます。

こうした中、世界選手権の３つの枠は絶対に死守しなければいけませんし、また、再びアジアの盟主となるべきでしょう。

③日本の課題

ユース、ジュニアのチームの団長として、アジア予選、世界選手権と同行し、選手と共に見てきて、2020年東京オリンピックの選手として現在のシニアの選手とジュニアの選手達が中心となっていくことになろうと思います。こうした中、今後、長期・短期的に「個」の育成をテーマにした一貫した指導をする必要があると考えます。

今年、ユース→ジュニアとスタッフの入れ替えの中、具体的な引き継ぎもなく、選ばれた監督の考える戦術を落とし込んで大会に臨んできた様に感じます（積み重ねのない状況）。

ユース、ジュニアの４年間にアジア、世界を熟知し、それに合ったチーム作りで個を発掘、育成し、実践することの出来るスタッフの選考、役割分担を行うため、DF・GKコーチの導入、OF・速攻コーチの配置をし、それらを統括するゼネラルマネージャー（監督）が幹を作り、枝葉を各コーチがアジア、世界に合った体制で積み重ねていくことが肝要であろうと思います（もちろんスタッフの入れ替えはある）。

※強化は途切れさせてはいけない。

最後に一貫指導について述べます。簡単に言えば、各アンダーカテゴリーでは同じ認識で継続して徹底することではないでしょうか。そうした中、ステップアップして大きな力が結集されていくと思います。

来年の世界選手権では、必ず新しい段階にこられる様、皆様のご協力をお願いします。

監督　佐藤壮一郎

1．はじめに

大会参加に伴い、選手やスタッフを派遣して下さった所属チーム、ご父母の皆様、強化のサポートをして下さったトレーナー、実業団チームの皆様に心よりお礼申し上げます。また、大会出場準備などでご尽力頂いた日本協会の方々にも心よりお礼を申し上げます。

下記に大会までの取り組みと今後の課題についてご報告させて頂きます。

2．ジュニアアジア選手権の歴史

（1）過去の大会結果（表１）

表１

回数	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回	第９回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回
開催年	1988	1990	1992	1994	1996	1998	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014
開催日程	8/5～15	8/8～18	8/20～27	10/23～31	8/21～30	8/25～9/9	8/30～9/10	8/21～30	9/8～17	8/22～31	725/～8/5	7/23～8/5	6/30～7/13	8/2～14
開催国	シリア	イラン	中国	シリア	UAE	バーレーン	イラン	タイ	インド	日本	ヨルダン	イラン	カタール	イラン
１位	韓国	中国	韓国	カタール	UAE	バーレーン	クウェート	クウェート	クウェート	クウェート	クウェート	カタール	カタール	カタール
２位	クウェート	韓国	クウェート	バーレーン	サウジアラビア	サウジアラビア	カタール	カタール	韓国	韓国	イラン	韓国	韓国	韓国
３位	シリア	シリア	**日本**	サウジアラビア	カタール	クウェート	韓国	韓国	イラン	サウジアラビア	カタール	イラン	クウェート	**日本**
４位	台湾	**日本**	台湾	韓国	韓国	中国	バーレーン	UAE	**日本**	中国	韓国	UAE	サウジアラビア	イラン
５位	カタール	台湾	中国	**日本**	バーレーン	韓国	イラン	**日本**	カタール	**日本**	ヨルダン	**日本**	**日本**	サウジアラビア
６位	UAE	イラン	カタール	UAE	**日本**	オマーン	台湾	台湾	オマーン	イラン	サウジアラビア	バーレーン	イラン	クウェート
７位	**日本**	カタール		シリア	オマーン	台湾	**日本**	中国	UAE	カタール	バーレーン	シリア	バーレーン	シリア
８位	パレスチナ	インド		クウェート	イラン	UAE	中国	台湾	台湾	インド	**日本**		UAE	イラク
９位	イラン			中国	中国	**日本**・カタール	オマーン		中国	台湾	中国		台湾	バーレーン
10位					クウェート		インド		インド	マカオ	UAE		イラク	ウズベキスタン
11位							マカオ		バングラデシュ	香港	香港		香港	オマーン
12位											インド		ウズベキスタン	
13位													レバノン	
14位													マカオ	

※アミがかかった部分は世界選手権出場権

（2）第13回大会　2敗の分析について（表２・３）

表２　【定量】

	Ｓ到達率	Ａ成功率	Ｍ発生率	ＧＫ阻止率	Ｓ成功率	ＤＳ	ＳＳ	ＢＴ	ＰＳ	ＦＢ
日本	58%	36%	27%	24%	49%	8/19	4/10	4/6	2/2	3/6
韓国	77%	58%	22%	38%	75%	7/13	4/5	4/7	5/5	12/14

日本	68%	49%	21%	17%	62%	11/19	3/4	2/5	2/3	8/11
サウジ	64%	54%	21%	28%	68%	8/17	3/4	7/8	8/10	2/2

表３　【定性】

局面	成果	課題	原因	対策
ＤＦ	最初に比べると成長	簡単に失点する	わからない、できない	基本徹底１対１、２対２、３対３キリ
ＧＫ	三者三様であった	高い遠い所からＤＳ	反応が悪い	パワー・スピードを付ける
ＦＢ	個人能力が高い	戦術の統一、攻走守のバランス	時間を掛けていない	意思統一と三拍子揃える
ＯＦ	戦術徹底が図れた	牽制に対する攻撃	止まってプレー	動きながらプレーできる練習
ＢＣ	最初に比べると成長	意識が低い	習慣化	１点の重みを理解させる
体力	体調不良者なし	連戦による疲労の蓄積	コンタクト、食事	連戦を勝ち抜く体力
意志	ムラがある	戦う姿勢、勝ちに対する拘り	成熟していない	勝負脳、最強思考
他				

3．基本方針

課題克服・知識創造型チームを目指し、強化して行く。具体的には、過去の大会や練習試合の結果を現状把握（成果と課題）として、成果については継続。課題に対しては原因究明、対策を立案し、実行していき、課題の克服を目指す。また、知識創造については、チーム（スタッフ・選手）の役割を明確にし、責任と権限を持たせることでアイディアの抽出、共有を図っていき、自立したタフな選手の育成を目指していく。具体的な実施内容や計画については、下記、活動骨子をご参照ください。

4．活動骨子

（1）目標

アジアチャンピオン

（2）チーム方針

得点力のある選手をベースに特徴にあったDFシステムを構築し、スピードある展開を目指す。

（3）過去国際試合での課題

【フィジカル面】ハンドボールは、コンタクトプレーが許されるため、時としてウエイトが武器となる。しかし、学生は、経済的な理由等から食生活が疎かになり、世界で戦える身体ができていない。トレーニング・栄養・睡眠を効率よく実施できる知識と環境の充実を図ることが重要である。パワー・スタミナ対策（大型PP・BP、クイックスタート、連戦）・更なる個の強さ：コンタクトや身体の使い方。

【戦術面】世界は、速攻を中心に早いテンポで攻撃を仕掛けてくる。攻撃中心選手のDF力が劣り、逆速攻の失点やクイックスタートに対する防御が問題となる。又、ポストへのパスミスなど帰陣できないミスを減らす。OF・DFバランスのとれた選手の育成とライン際のシュートが増えるグループ戦術を充実させる。又、日本人のクイックネスを最大限に生かすため、二次速攻による得点力アップを図る（チーム戦術の充実）。

以上を踏まえて、大会前に互角以上の相手とトレーニングマッチを実施し、事前に課題を抽出する。大型DF・GK対策（ドリブル突破・ステップシュートからの変化・ステップフェイント、ワンマン速攻、股下顔横シュート・速攻スカイ・攻め倦んだときの打開策）・DF１対１（フェイント・ポスト守り）・GK：サイドシュートのキーピング・７mTコンテストの準備。

【メンタル面】プレッシャーのかかる状況で実力が発揮できるように若い世代のうちに様々な相手と国際試合を数多く経験させる必要がある。特に開幕戦と勝負の掛かったゲームの準備、モチベーションの持続や何事がおきても動じないメンタリティー、接戦での平常心が必要。最後まで攻め続ける強い気持ち。

【コンディショニング】過去の大会において、３連勝した休息日、翌日の状態が良くなかったので、スケジュール調整を綿密に行う。１日１回緊張感を与えるように工夫する。（太陽に当たり過ぎない、観光の内容も吟味）

【その他】怪我人などでメンバーの固定が遅れ、大事な場面で組織的に機能せず、また、センターラインを固める核の選手が育たなかった。国内でチームのベースを創り、海外遠征を実施、また、コートの中での監督を育成する。大会規定の把握。

【選手選考】

・1994年生まれ以降のなるべく強化指定選手から得点力、フィジカル、スピードの順で選考
・国内の大会において、所属チームでゲームに出場している選手
・実業団とトレーニングマッチを行い、戦力的に必要な選手を補強（強化指定選手外含）

【大会までの事前準備とコンディショニング】

５／23、NTCにて体力強化合宿を実施する。所属チームにて体力トレーニングを継続。強化指定選手をベースに世界で戦える身体（身長－100以上の体重）を目指す。週末３回、実業団とテストマッチを行い、課題の確認をする（チームのベース創り）。アジア選手権の数週間前にヨーロッパ遠征をし、テストマッチを実施し、パワーとスピードに慣れ、大会に臨む。

【ルール】
・代表選手としての自覚責任のある行動をとる
・コートの中では常に全力を尽くす
・コートの外では、最高なパフォーマンスが発揮できる準備をする

【スタッフ選考基準】
・技術・戦術を指導できる者（特に OF）
・ハンドボールを熟知し、外国語が堪能な者
・明るく気配りのできる事務的能力に優れた者
・最新機器を駆使し、映像編集や分析能力にたけている者
・メンタルケアーもできるドクター・トレーナー

5．第 14 回大会の報告

（1）大会名

第 14 回男子アジアジュニア選手権（世界選手権予選）

（2）期間・場所

2014 年 8 月 2 日～8 月 14 日・イラン：タブリーズ

（3）参加国と組合せ（表４）

表4

予選	1	2	3	4	5	6
A	カタール	サウジ	日本	ウズベ	シリア	オマーン
B	韓国	クウェート	バーレーン	イラク	イラン	

↓

セミファイナル
Ⅰ　Aグループ1位　×　Bグループ2位
Ⅱ　Bグループ1位　×　Aグループ2位
→
3位決定　Ⅰ　敗者 × Ⅱ　敗者
ファイナル　Ⅰ　勝者 × Ⅱ　勝者

＊大会３位まで世界選手権出場

（4）日程と成績（表５）

表5

日付	曜日	内容	重点局面	成績
7/25	（金）	ANTC 集合 18：00	体調確認	
7/26	（土）	トレーニング	カタール対策	
7/27	（日）	トレーニング	サウジ対策	
7/28	（月）	東京／成田（09：25）		
7/29	（火）	タブリーズ（04：25）	身体解す	
7/30	（水）	現地トレーニング（時差調整）	カタール対策	
7/31	（木）	現地トレーニング（時差調整）	サウジ対策	
8/1	（金）	トレーニング（調整）	時間・数的	
8/2	（土）	テクニカルミーティング・開会式	ゲームアップ	
8/3	（日）	vs カタール 19：00～		18 ● 26
8/4	（月）			
8/5	（火）	vs サウジ 19：00～		33 ○ 27
8/6	（水）			
8/7	（木）	vs シリア 19：00～		35 ○ 23
8/8	（金）			
8/9	（土）	vs ウズベ 15：00～		31 ○ 19
8/10	（日）			
8/11	（月）	vs オマーン 15：00～		38 ○ 12
8/12	（火）	vs 韓国 16：30～		24 ● 32
8/13	（水）			
8/14	（木）	vs イラン 17：00～（3位決定戦）		33 ○ 32
8/15	（金）	タブリーズ（05：30）		
8/16	（土）	東京 / 羽田（16：00）		

＊大会成績　5勝2敗　第3位
1位　カタール
2位　韓国
3位　日本

6．今大会の成果と課題

（1）過去大会に対する成果

【フィジカル面】（世界と戦える身体）パワー・スタミナ対策
全員ハンドボールで連戦を乗り越えた。

【戦術面】（大型 DF・GK 対策）
クイックシュートや股下顔横シュート・速攻スカイなどで攻略することができた。

【メンタル面】（自立したタフ選手の育成）
どんな状況も前向きに活動できた、モチベーションビデオが良かった、ユースで勝った経験者多い。

【コンディショニング】（連戦の対応）
食事・クールダウンの徹底により、連戦に対応できた。

（2）第 14 回大会の成果

・経験豊富なスタッフ、選手が揃い、戦う姿勢があった。
・世界選手権の出場を決めることができた。
・スタッフ選手の長所が生かされ役割分担ができていて、チームワークがよかった。

（3）世界選手権への課題

【フィジカル面】（世界と戦える身体）パワー・スタミナ対策
更なる個の強さ：大型選手に押し込まれない体幹の強さを持つ。

【戦術面】
・強固な DF・GK に対して組織的な OF からの個の強さ（プレス攻略）
・シュートを簡単に打たせない DF 力の向上、打たれても打開できる GK の養成。
・ゲーム中の対応力、DF・GK は、同じことをやられない。OF は、決まったプレーを継続する強かさ

【メンタル面】
練習中から研ぎ澄まされた集中力を磨いていく

【コンディショニング】
怪我をしない身体づくり（柔軟性の向上、食事の栄養管理、クールダウンの徹底）

7．最後に

ユース世代で世界選手権に出場したメンバーが中心であり、また、東京オリンピックのターゲットエイジのため世界選手権に出場するか否かで、今後の日本代表の強化に大きな影響を及ぼすことは、示唆されていた。

30 年近く世界の扉を開くことができなかったが、ハンドボールに携わっている方々の取り組みの結集により世界選手権の出場を獲得できたと思っている。

今後もハンドボールが大好きな人達が同じ方向をむいて、日々、努力していけば、近い将来、世界に追い付き、また、世界大会で日の丸が掲揚される日も夢ではないと期待に胸を膨らませている。

U-21キャプテン　田中　圭

ジュニアチームと言っても私たちの始まりはユースからである。今回の大会で4年目になる。初めてU-19アジア選手権を経験し、他国との差を感じながらも2位で終えることができた。この大会が私たちの始まりである。世界選手権に出場し、壁の大きさを感じ個々がまたこの地へ戻ってくることを誓った。

大学生ということもあり、リーグ戦を終えて週末の3日間の合宿が毎週続いた。どの合宿もメンバー全員が揃うことはなく、故障しているものや大学の授業で遅れてくるものなど、様々な事情があるなかでのトレーニングであった。チームの目標としては、アジア№1となり世界選手権に出場することである。私としては、通過点でなければならないと考えていた。もちろん、メンバーの全員もそうであったと思う。大学のチームや実業団のチームのご協力もあり、成功したことや反省・課題を合宿でトレーニングすることができた。また、カタール国際に出場することで、現在のチームの状況やレベルを把握し、アジア選手権に繋げることができた。

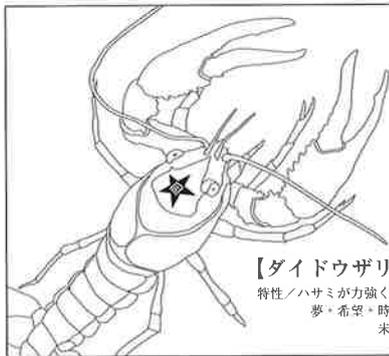
今回会場となるイラン・タブリーズは、日本のような環境の良いところではない。標高が約2,000ｍと高く、練習のアップで息が乱れ、のどが渇くといったパフォーマンスに影響がでること。食事についても日本とは違い、アジアを何度か経験しているといっても慣れることはなく、栄養面についても難しかった。初戦カタールを落とした私たちは落ち込んだ。反省することが多く、次は負けることが許されないということもあり、メンタルにも影響が出た。運命の第2戦、私たちはサウジアラビアに勝利した。前日の調整や、ミーティングで敗戦からの切り替え、やるべきことを再確認したことで勝利へと繋がった。

予選リーグを2位で勝ち上がり、準決勝の韓国戦を迎える前、私達メンバーは緊張というよりは楽しみという気持ちのほうが増していた。なぜなら、初めての韓国戦だからである。結果は負けてしまったが、落ち込むメンバーは一人もいなかった。3位になるための準備を個々が始めたからである。

残り1分イランボール、日本1点リード。足を動かし、手を挙げ切符を掴めるよう必死に守った。終了のブザーが鳴った時には、チーム全員が拳を天井に掲げ、これまでの緊張がほどけ歴史がスタートした。

チームの目標であるチャンピオンにはなれなかったが、世界選手権の地へ戻る誓いは叶えることができた。結果を残したのは私たちであるが、ここで試合をするために送り出してくれた両親。ハードスケジュールの中指導してくださったスタッフ。これまでハンドボールを教えてくださった恩師。多くの方々の支えや目に見えないところで支えてくださったおかげで、結果を残すことができ感謝している。日本で、野球ではなくバスケでもなく他にもたくさんあるスポーツの中のハンドボールを選んだ方々に、笑顔を届けることができました。ハンドボールがメジャーへの一歩を踏み出せたと思う。ジュニア世代であるため、自立することなど欠けている部分が多いチームですが、One for all, all for oneのように全員で勝ち取った未来を明るくできるように、一人一人が大好きなハンドボールに取り組み、世界選手権・東京オリンピックに向けて頑張りますので、これからもご支援ご声援よろしくお願いします。

私個人の感想は、通過点をクリアすることができて良かった。ユース時代の忘れものや夢にまた挑戦できるからだ。

正直なところ、このアジア選手権や合宿は、プレーに集中できたかというと不安がたくさんあった。前回大会で世界選手権の出場を獲得しているというプレッシャー。選手としては怪我を抱えていたことや、キャプテンである以上、弱みを見せずチームのことを考え、大学も両立しなければならない。合宿も週末の3日間が連続してはいるものの、長期的な合宿ではないためマネジメントが難しかった。大学生であるため、自己管理や自立することが欠けており、チームで統一したいことが薄れてしまうことが多々見られ、どう改善していいのかもわからなかった。不安や焦りはプレーでは見せないようにしても、態度には出ることもあっただろう。そんな中、スタッフの方々の支えや、メンバーの協力もあり無事にやり遂げることができた。大会が終わった時に改めて一人ではハンドボールができないこと。7人制の競技でメンバーが18人とスタッフがいることの意味を感じることができた。不安

でどうしようもないときは、これまで支えてくださった人や応援してくださっている人の顔を思い出すことで、勇気とパワーをもらっていた。

この大会での経験は、ハンドボールだけでなく人生の中で私の糧になるだろう。このような経験をできたことや異国の地へ送り出してくださった多くの方々に感謝したい。みなさんへの恩返しとして、ハンドボールを少しメジャーにできたのではないかと思う。

一日一日が私を向上させてくれる大会であった。これから、もっともっと上を目指したい。

U-21 代表（男子ジュニアアジア選手権 MVP） 徳田 新之介

8月2日から14日まで開催された第14回男子ジュニアアジア選手権に出場し、来年ブラジルで行われる世界選手権の切符を取ることができ、嬉しく思います。

しかし、大会を通してチーム、個人として満足のいく試合は一度もありませんでした。個人的には普段の大学での取り組みに甘さがあったり、練習後のセルフケアを真剣にしていなかったことがプレーに直結していました。日ごろの生活から日本代表としての自覚と責任をもち、普通の大学生ではないということを強く意識する必要があると改めて思いました。

3位決定戦のイラン戦では後半の中盤に立て続けにミスをし、チームに迷惑をかけてしまいました。もうミスはしたくないと、弱気になりそうなときに高校の恩師である倉谷先生の「チームが苦しいときにエースとして点を取れ」という言葉を思い出し、最後は自分が決めてやるという強い気持ちがあったからこそ、決勝点に繋がったのだと思います。

そして、MVPという名誉ある賞を頂き、嬉しく思います。近森団長をはじめスタッフの方々、チームメートに感謝したいです。また、この大会期間中、思うようなプレーができないときに仲間が助けてくれたり、佐藤監督が自分のことを信じてコートに立たせてくださり、世界選手権でチームを勝たせるエースとして、活躍したいという気持ちが強くなりました。そのためには、ディフェンスに詰められたときの対応や判断してプレーすること、柔軟性を高める必要があるので、日々の練習から意識して取り組んでいきたいです。

2015年のブラジルで行われるジュニア世界選手権では、ユースのときに果たせなかった決勝トーナメント進出を目標に、まずは個人技術の向上、戦術を理解することを大切にしていきたいです。そして、たくさんの方々に支えられているということに感謝をし恩返しができるよう頑張りたいです。

戦　評

■8月3日（日）：Aグループ
日本　18（8－12，10－14）26　カタール

悲願の世界選手権出場に向け、アジア選手権の開幕戦。日本のスピードを爆発させ、勝利したいところ。スタートは、不用意に前に詰めスペースを突かれ、間を割られて7mやポストなどで0対2とされる。藤のロング、屋比久のサイドシュートで同点とすると、日本DFが相手の利き手側にプレッシャーをかけ、またカタールDFも両BPを高く守りロースコアーの展開となる。終盤、日本はミスが続き、カタールに確実にシュートを決められ8対12で前半を折り返す

後半、日本はロングを相手ゴールキーパーに連続で阻止され、逆に相手のクロス攻撃からロングシュートを決められ、苦しい展開となる。川島の速攻からの連続得点で巻き返しを図るも、流れを掴む場面でシュート外し、点差を縮めることができない。最後、西山のロングシュートが連続で決まるが、時遅く、開幕戦を痛い黒星でスタートとした。

［個人得点］川島：6点、徳田：3点、玉川・屋比久・西山：2点、藤・今野・堀：1点

■8月5日（火）：Aグループ
日本　33（14－10，19－17）27　サウジアラビア

開幕戦の黒星スタートを引きずらないように状況が悪い時こそ、明るく楽しく元気よくチームJAPANを合言葉に練習し、勝負のサウジ戦に臨む。スタート、サウジのパスミス、日本も連続ミスで主導権を握れない。均衡を破ったのは藤のランニングシュート。続いて田中のロングも炸裂し2対0とする。サウジもポジションチェンジプレーから広いスペースを作り粘り強く攻め3対3と互角な展開。一進一退の攻防が続く均衡を破ったのは、ラスト10分堀、徳田、西山のゴールで前半4点差で折り返す。

後半、スタートは徳田、玉川の速攻・ポストなどで6点差とする。サウジも日本のミスから速攻、ロングを決め3点差に追いつく、流れが相手に傾きかけたところを川島のパスカットから流れを引き戻す。DFは、粘っこく守るもロングシュートを簡単に決められ、3点差を離せない。最後、エース藤の強烈なロングが決まり勝負あった。ベンチメンバー全員が出場し、役割を果たす活躍を見せ、大会1勝目を上げた。

［個人得点］徳田：藤：7点、川島・田中：4点、屋比久：3

点、庄子・玉川：2点、岡松・安倍・堀・西山：1点

■8月7日（木）：Aグループ
日本　35（15－10，20－13）23　シリア

第3戦、国際試合で一番心身ともに疲れがたまるゲームスタート。いきなりシリア右BPのカットインを決められる。日本も徳田の速攻で同点。シリア、日本ともイージミスでお互いに抜け出すことが出来ない。均衡を破ったのは将来、期待のエース安部のカットイン、ロングと中盤に5点を叩きだす。相手に退場者が出たところを徳田、田中、川島、藤の連続ゴールで前半15対10で折り返す。

ハーフで近森団長のアドバイスから落ち着きを取り戻し、玉川のポスト、藤のロング、岡松のサイドなどの連続ゴールで後半の10分で10点差をつける。交代したメンバーも今野、庄子、堀の速攻で攻撃の手を緩めることなく、セーフティーリードを守る。相手も諦めることなく、苦し紛れのロングを叩き込んでくるが、相手の息の根を止めたのが、この日、絶好調の安部。遠い距離からのロングシュートを3本叩き込み試合を決めた。

［個人得点］安倍：10点、徳田：6点、藤：5点、田中：3点、川島・岡松・玉川・堀：2点、庄子・今野・楳木：1点

■8月9日（土）：Aグループ
日本　31（17－12，14－7）19　ウズベキスタン

予選リーグ残り2戦。準決勝進出に向け負けの許されない状況下、チーム一丸となって臨んだウズベキスタン戦。開始から攻撃的6－0DFが機能し得意の速攻で徳田、藤が得点。前半中盤からシュートミスが続き、内容では相手を圧倒するも思うように点差が開かず17対12で前半を終える。

ハーフタイムで国際試合に向かうハートを入れ直し後半戦に突入。DFで積極的に守り、相手攻撃の芽を摘み、得意の速攻から田中、屋比久が加点。後半15分間で2失点と勝利を決定づけた日本は、その後も攻撃の手を緩めず、庄子、楳木、安倍らが活躍。GK西出の集中力も冴え31対19で相手を圧倒した。

［個人得点］徳田：7点、藤：5点、田中・安倍・屋比久：4点、庄子・玉川：2点、川島・今野・楳木：1点

■8月11日（月）：Aグループ
日本　38（19－6，19－6）12　オマーン

大事なサウジ戦を勝利してから、完勝ができていないチームジャパン。滝川コーチが合流し、メンバー全員揃った状態で会心な勝利をしたいところ。スタート、日本6-0DFの詰め過ぎたところに、オマーンにサイドシュートを決められ先制点を許す。日本も負けじとエース藤のカットインシュートで同点。流れを掴んだのは、徳田の速攻、ロング、藤のロング、両BPの活躍で8対3とする。終盤からは、屋比久、今野、安倍の連続速攻で前半19対6と大差となる。

後半も気を引き締め、岡松の速攻、川島のロング、玉川の速攻で攻撃の手を緩めることなく、中盤で28対8となる。交代した選手達も庄子のロング、堀、服部のサイドシュート、楳木のポストシュートなどで加点する。DFも最後まで気を抜くことなく守り、角度のないサイドシュートを坂井がシャットアウトして38対12と快勝した。

［個人得点］徳田：8点、藤・安倍：5点、今野：4点、庄子・屋比久・堀：3点、岡松・楳木：2点、川島・玉川・服部：1点

■8月12日（火）：準決勝
日本　25（11－14，14－18）32　韓国

宿命の日韓戦、勝てば世界選手権出場が決まる一戦。韓国の3-2-1DFをいかに崩すかがポイントであった。スタート、韓国エースのロングシュートをシャットアウト。日本は、ダブルポストでノーマークを作るも決まらず、次の韓国のロングもシャットアウトしたが、日本速攻のチャンスをミスで先取点を奪えない。韓国の3-2-1DFにリズムが掴めず、ミスが続き、韓国に速攻、ロングを決められ、6点差となる。日本はたまらずタイムアウトを取り、その後、徳田7mT、田中のロングで落ち着きを取り戻す。中盤、安倍カットイン、屋比久のサイドシュートなどで点差を縮め、前半ノータイムスローを安倍が叩き込み11対14と後半に望みをつなげる。

ハーフタイムで攻撃の徹底をし、後半へ。安倍の速攻、田中のロング、カットイン、庄子の速攻で2点差とする。韓国もコンビネーションプレーで追い付かせない。流れを掴むシュートを外し、ジリジリと点差が離れる。最後、DFを仕掛けて川島・今野らが得点をするも、スペースを上手くつかれ、失点を抑えられず、敗戦。次のイランとの最終戦にチーム一丸で勝利し、世界選手権のキップをとる。

［個人得点］田中・安倍：6点、徳田：5点、川島：4点、今野：2点、玉川・屋比久：1点

■8月14日（木）：3位決定戦
日本　33（16－16，17－16）32　イラン

世界選手権に向けた大一番、30年の扉をこじ開けようとチームが一つになって臨んだ一戦。スタート、日本のチェンジミスを突かれ右サイド、ロングを決められる、日本は、田中のカットイン藤のロング岡松のサイドで応戦。しかし、流れを掴んだのはイラン。日本のミスを速攻に繋げ、3対7とリードを広げられる。中盤、エース徳田と交代して入った今野の活躍により流れを引き戻す。日本DFの足が動き始め、柿崎の好セーブから徳田、藤、庄子、川島の連続ゴールで振り出しに戻し前半を16対16の同点で折り返す。

ハーフタイムで利き手側を足で守ることを徹底して悲願の世界選手権に執念を燃やす。後半、徳田の速攻、藤のロング、川島のサイドで3点のリードを奪い、一気に行くかと見えたがイランのセンターに利き手側からブラインドシュートを何度も決められる。5-1DFや変形、選手を変えるなど対応するが遂に2点リードを奪われてしまう。前半の最後のメンバーに戻し玉川の速攻、川島のサイドなどで再び逆転。残り1分、イランボール。最後の力を絞り切り、執念のDF、イランのシュートが枠を外し歓喜の勝利となり、選手スタッフがコートになだれ込み喜びを爆発させた。うなだれるイラン選手に肩を貸す日本の主将田中に真のスポーツマンシップを感じた。また、挨拶後に自チームのベンチを清掃する日本選手達を見て、大会関係者からお褒めの言葉を頂いた。

最後にメンバー外の瀧澤を胴上げする選手達を見て、思いやりのある選手に育てた親御さんに感謝を申し上げたい。なお、徳田新之介選手がMVP、安倍竜之介選手がベスト7に選ばれた。

［個人得点］徳田：11点、川島・藤：6点、田中：4点、庄子・今野：2点、岡松・玉川：1点

第22回世界学生ハンドボール選手権大会

大会期間：2014年8月3日（日）～10日（日）　**開催都市**：ポルトガル　ギマランイス　Portgul, Guimaraes　**参加国数**：男・女各11カ国

【参加国】

［男子］

組	1	2	3	4
Aグループ	ポルトガル	台　湾	ポーランド	エジプト
Bグループ	チェコ	メキシコ	ロシア	トルコ
Cグループ	ブラジル	スペイン	**日　本**	ルーマニア

※男子Aグループのポーランドと女子Bグループのセルビアが棄権。

［女子］

組	1	2	3	4
Aグループ	ポルトガル	**日　本**	ロシア	メキシコ
Bグループ	チェコ	ブラジル	スペイン	セルビア
Cグループ	ルーマニア	韓　国	ポーランド	ウルグアイ

【最終順位】

［男子］　優勝：ポルトガル　2位：ブラジル　3位：スペイン　4位：ロシア　5位：エジプト　6位：ルーマニア　7位：チェコ　8位：台湾　**9位：日本**　10位：トルコ　11位：メキシコ

［女子］　優勝：ブラジル　2位：ロシア　3位：韓国　4位：ルーマニア　5位：スペイン　**6位：日本**　7位：チェコ　8位：メキシコ　9位：ポーランド　10位：ポルトガル　11位：ウルグアイ

総評

チームリーダー　福地 賢介
男子コーチ　横手 健太
女子コーチ　斉藤 慎太郎

ポルトガルの北部にあるポルトから北東に約60㎞に位置するポルトガル王国発祥の地ギマランイス（Guimarães）を主会場として、男女各11カ国が参加し、8月3日～10日、第22回世界学生ハンドボール選手権大会が開催されました。

初日のテクニカルミーティングにおいて、男子はポーランド、女子はセルビアの不参加が発表され、変則的な予選リーグとなったが、男女とも熱戦が繰り広げられた。

男子は、前評判通りリオ五輪を控えたブラジル、古豪ロシア、地元ポルトガルが決勝トーナメントへ勝ち上がり、ポルトガルが強豪スペインに競り勝ち、決勝戦では、ブラジルとの激戦を制して優勝。

女子は、ロシア、ブラジル、韓国が順調に決勝トーナメントへ勝ち上がり、ブラジルとロシアの決勝戦では、身体能力に優るブラジルがロシアを圧倒し優勝した。

日本男子は予選リーグ初戦のスペインに逆転で敗戦後、ブラジル戦、ルーマニア戦とも中盤リードする展開から終盤逆転されての敗戦となった。大事な場面でのシュートミスやオフェンスでの判断ミスが続き、ディフェンスでは相手の大型ポストを守れず連敗、9－11位決定戦への出場となった。順位決定戦では、メキシコ、トルコに連勝し、9位という成績であった。

女子は予選リーグ初戦のロシアに敗戦したが、2戦目のポルトガル戦で今大会初勝利をあげた。最終戦のメキシコに敗れたが、総得点差で決勝トーナメントに勝ち上がることができた。

決勝トーナメント1回戦では、優勝したブラジルを最後まで追いつめたが、1点差で惜敗し、あらためて1点の重みを感じさせられた。その後の順位決定戦では予選リーグで敗戦したメキシコに圧勝したが、続くスペイン戦に敗れ6位という成績で今大会を終了。

男女ともメダル獲得を目指した大会であったが、大変悔しい結果となった。男女共に国際試合の経験不足を危惧していたが、女子は、大会入りしてから急遽、ブラジル・ウルグアイ両国と練習試合を組む事が出来、貴重な経験も生かされたと思っている。なお、福地チームリーダーが裁定委員に任命されたが、特に、裁定問題もなく大会は無事終了した。

今大会の宿舎は、MINHO大学の学生寮に全チームの選手・スタッフが宿泊したが、他の国の選手やスタッフとコミュニケーションを取るという意味では非常に良い環境であった。食事面では、朝食から夕食まで全てを学生食堂でのビュッフェスタイルであったが、ピーク時の混雑を除けば、味、量、バランス等問題はなかった。

大会運営では、現地のボランティアスタッフが各チームにチーム係として帯同し、日々のスケジュール調整等をこなしてくれた。今大会の全試合がライブ中継され、選手たちは宿舎でも試合を観戦することができるなど良い面もあった。その反面、予選リーグ後のテクニカルミーティングが予定より2時間遅れの午後11時から開始されるなど、時間管理に不手際が見受けられたり、予選リーグから決勝トーナメントへ勝ち上がるチームの選考方法についても詳しい説明がなされず、不満の声を漏らすチームもあった。

時差があるにもかかわらず、日本でもライブ中継を観戦応援していただいたと聞いて、選手にとって励みとなった。しかし、現地では決勝戦を除き、どの試合も観客は殆どおらず、静かな会場での試合であった。

従来の大会では、参加チームの市長表敬訪問、地元有力者を交えた歓迎会などや、町中のポスター掲示、その他も見られ盛り上がりを感じられたが、今回はそれが全く感じられず、それらのことが観客動員に影響されているのではと思われた。また、参加国が一堂に会しての交歓の場もなく、各国から寂しいとの声も聞かれた。

競技担当のIHFタブロスキー氏を除き、FISU役員の入れ替わりも、新しい人脈構築にも役立ったが、この世代の強化を図っている国の指導者には見知った顔ぶれが多く見られ、旧交を温める事が出来た。

各国、特に、男子は、これまでの世界学生選手権大会出場を

機に、ナショナルチームへとステップアップしているが、わが国も全日本へ巣立った選手が数多く見られており、2016 年のリオデジャネイロオリンピック、2020 年の東京オリンピック、そしてそれ以降のハンドボール人生に向け今大会で得た経験を糧とし、さらなる飛躍を期待したい。

最後に、今大会の準備段階から色々とご尽力戴いた日本協会および全日本学生連盟関係者の皆様、また、今大会出場に際し選手を派遣して戴いたチーム関係者の皆様、事前合宿で協力して戴いた、男子ナショナルチーム、大崎電気、トヨタ車体、東京女子体育大学のチーム関係者の皆様に改めて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

男子

男子チーム監督　大城　章

世界学生選手権を終えて

「金メダルを獲得する」をチーム目標に掲げ、戦い抜いた 7 日間の戦いを振り返りたい。まず、大会前に、事前合宿を計 7 日間（NTC にて）実施した。短い合宿期間であったため、日本代表や実業団チームの胸を借り、ゲームを通して戦術・テーマの浸透およびチームづくりを行った。防御では、「相手に的を絞らせないディフェンス（以下 DF）」をテーマに、3：3DF、マンツーマン DF、6：0DF から不規則にプレッシャーをかける 3 種類の DF システムを準備した。攻撃では、「選手同士のポジションチェンジと素早いパスまわし」をきっかけに、DF 間を強く狙い DF を動かす事によってスペースを作り、そこに隣の選手が状況判断し攻めるという、連動性を持った攻撃の構築を共通認識した。

予選リーグではスペイン、ブラジル、ルーマニアと強豪チームがひしめくブロックの中で善戦したが全敗した。全ての試合で途中リードするも、突き放す場面でのシュートミスや、相手の体格を活かしたポストプレーを守りきれず失点し、試合を有利に進めながらも逆転から敗戦。最下位となった日本は 9 － 11 位順位決定戦へとまわった。順位決定戦では、メキシコ、トルコにフットワークを活かした 3：3 DF で終始ペースを掴み 2 連勝し、今大会 9 位という結果で終了した。

目標達成には遠く及ばなかったが、今回得た成果として、

①3：3DF、マンツーマン DF が有効に機能した。

②セット攻撃時には、オフ・ザ・ボールの動きを徹底したことにより（パス＆ラン）、カットインプレーの出現率が増加し、攻撃の決定率が向上した。

以上 2 点があげられる。特に DF においては、対戦したスペイン、ブラジルのスタッフ、また大会関係者から「日本の DF はファンタスティックだった」と賞賛された。このことは、今回の日本の防御が今後、世界と戦うためのヒントになったと実感している。

一方、課題点としては、

①選手全体のプレーにおける共通認識のズレ（各所属チームによって考え方が異なるため）

②世界と 60 分間戦える体づくり。

③攻撃時におけるポストとサイドの有効活用

である。特に③のポストプレーについては、試合後スペイン代表監督から、「日本は素早いパス回しとポジションチェンジから素晴らしいカットインプレーが多かった。しかし、ポストプレーがない分、大事な場面で的が絞りやすかった。」とアドバイスを頂いた。つまり、日本チームは世界主流の攻撃戦術であるポストプレーを有効に使えなかったのである。対戦した全てのチームが、試合後半の大事な時間帯に、必ずポストを軸に攻撃を組み立てていたことからも、今後日本にはポストプレーの幅の拡大、およびプレーヤーの発掘・育成が必要不可欠であると考える。その際に課題②で述べた体づくりが当然必要となってくるわけだが、「どのような体づくりを行うべきか？」といった問題については①の点が重要である。

以上の事をふまえ、ハンドボールに携わる者一同で再考し、日本全体で一貫性をもって行うことが日本ハンドボールの一層の発展に寄与するものと考える。

今回は、大変貴重な経験が出来たことに感謝し、今後もこの経験を活かすべく、精進していきたい。

男子チーム　植垣 健人（大崎電気）

世界学生選手権大会に出場して

「金メダルをとりに行く」と 8 月 3 日から開催される世界学生選手権に向けて 7 月中旬、下旬と NTC で 2 回の合宿を行いました。

体格では負けている日本が勝つためにと、DF は 3：3 DF やフォローを考えながらのマンツーマン DF 等、様々な DF システムの強化を行いました。OF ではパスした後にスペースに走りこみ、そこから継続することでシュートチャンスを見つけるパス＆ランの強化を行いました。

5 試合してどの試合も共通して言えるのは、最初の 10 分は日本のとても高い DF システムに海外の選手は対応できず、崩されずに速攻で点を取り大きなリードを奪うことができました。また、OF 面でもボール回しを継続していく中で、間を強く狙うというパス＆ランは効果的なシステムであったと

思います。

また、試合をして感じたのは日本の速攻は海外に通用するということです。スピードは、やはり日本の方が速く、工夫した走り方やタイミング、人数の余らし方などが優れていたと感じました。しかし、これにはまず、しっかりと『守る』というのが絶対条件で、高いDFを対応された時に守れなくなり、速攻ができず逆転、または点差をひろげられる、という展開が多くありました。今大会で自身にとっても反省・改善することが見つかり、また、海外の選手にも通用する自分たちのプレー等がたくさん見つかり、私にとっては、とても充実した大会となったと言えます。また、順位は9位と納得のいく結果ではありませんでしたが、順位以上に世界と戦えるのではないかと私は感じました。

最後になりましたが、今大会出場に際しご支援、ご協力そして応援してくださいました皆様に御礼もうしあげます。ありがとうござました。

女子

女子チーム監督　樫塚 正一

第22回世界学生選手権大会

世界学生選手権がポルトガルのギマランイス市で開催された。選手の構成は社会人（1～2年目）5名、大学生（3～4年生）11名の16名でチームを構成した。大会までの準備期間が短く、強化練習は女子代表チームの戦術を取り入れ活用できる戦術を生かした。試合結果は11チーム中6位という成績であった。

1．Group　A予選リーグ

8月4日　第一戦：日本　24－33　ロシア

8月5日　第二戦：日本　32－22　ポルトガル

8月6日　第三戦：日本　32－38　メキシコ

予選リーグ三戦は対戦チームの特徴を事前に知ることが出来ず、試合の中で戦い方を立てる事になった。ロシア戦を除く二戦は、失点も多いがDFが機能的に作用して速攻によって得点を重ね試合を有効的に進める事が出来た。予選リーグで学んだ教訓は、対戦相手のスタイルに対応する戦術の工夫がなければ世界で勝てないことだ。

2．決勝トーナメント

8月8日　1位～4位決定戦：日本　25－26　ブラジル

8月9日　5位～8位決定戦：日本　36－18　メキシコ

8月10日　5位～6位決定戦：日本　19－31　スペイン

決勝トーナメントに進むことが出来たが、予選リーグの戦い方とは異なり試合の立ち上がりに主導権を持たなければ試合運びを有効的に展開できない難しさを教えられた。ブラジル戦、メキシコ戦で状況に応じるDFが機能的に力を発揮し、速攻による得点を取ることが出来た。最終戦となったスペインとの戦いでは、試合立ち上がりから攻防に於いて戦術が機能せず、一度も主導権がもてない苦しい戦いが続き破れた。

女子チーム主将　河田 知美（北國銀行）

第22回世界学生ハンドボール選手権大会を終えて

まず始めに、大会出場にあたり日本ハンドボール協会並びに全日本学生ハンドボール連盟、ご支援いただきました関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

私達は、8月3日～10日にポルトガル・ギマランイスで開催されました第22回世界学生選手権に出場させていただきました。今大会メダル獲得を目標に、国内では十分な合宿を組めませんでしたが、現地でブラジル、ウルグアイとテストマッチを行い、大会に臨みました。結果は、予選リーグ1勝2敗、得失点差で決勝トーナメントに進み、ブラジルに敗れたもののメキシコに勝利、順位決定戦でスペインに敗れ6位でした。パワーと長身を生かしたハンドボールをする相手に対してアグレッシブなディフェンスと速攻がうまく機能すれば自分達のペースで試合運びができましたが、自分達のミスや流れが悪いときの修正の遅さから失点してしまうケースが多かったように思います。

今大会を通して、決勝トーナメントに進み、より強い世界の相手と試合ができたこと、チーム一丸となって戦い勝利する喜びを感じることができました。

メンバーの中には、学生選手・国際大会が初めての選手も多く、貴重な経験を積むことができ、今後の競技生活に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

戦　評

[男子]

■8月4日（月）：Cグループ

日本　31（14－18, 17－15）33　スペイン

立ち上がりパスカットから植垣の速攻で日本が先制。以降も、日本の3-3DFが機能し、植垣、東江の速攻などで、序盤5点のリードを奪う。しかし、そこから日本にミスが続きスペインの素早い速攻や右サイドなどから連取され、同点に追いつかれる。東江のカットインで流れを食い止めるもそこからスペインにスピードとパワーを見せつけられ、終盤に4連取され14対18で前半終了。

後半立ち上がりから巻き返したい日本だが、シュートミス、イージーミスが続き、スペインに5連取をされ9点差となる。しかし、そこから日本チームは植垣のディスタンスシュート、小塩、玉城の速攻などで一気に追い上げを見せ5点差まで追い上げる。ここでスペインに7mTを決められるも、森田、玉城の速攻で3連取をあげる。中盤から一進一退の攻防が続く中、GK岩下のファインセーブや藤江の速攻などで、ラスト1分1点差まで追い上げたが、残り40秒で左サイドから勝ち越しゴールを決められ試合終了。

［個人得点］植垣・東江：8点、内海：4点、小塩：3点、玉城：2点、藤江・池辺・山田・森田・村田・小山：1点

■8月5日（火）：Cグループ

日本　26（12－16, 14－20）36　ブラジル

立ち上がりから日本は体格に勝るブラジルに対しオールコートマンツーマンDFを仕掛ける。ブラジルは日本の高いDFを攻める事ができず、なかなかリズムがつかめない間に、日本は森田のパスカットなどから玉城、内海、子安の速攻などで日本ペースでゲームが進む。しかし、16分過ぎに1点差まで詰め寄られると、日本の攻撃が単調になり、一気に5連取され残り4分で4点差となる。東江の速攻でリズムを取り戻すが、中盤に4連取され、4点ビハインドで前半終了。

後半立ち上がりからノーマークを作るも、相手GKのファインセーブによりリズムのつかめない日本に対し、ブラジルは6番の力強いミドルシュートなどで着実に得点を重ねる。日本も、植垣、東江のミドルシュート、速攻で追い上げるものの、追いつける場面で相手GKにシュートを阻まれ徐々に点差が広がっていく展開となった。終盤植垣、東江のミドルシュートで追い上げるも、ブラジル5番、7番の力強いカットイン、ミドルシュートを決められ26対36で敗れた。

［個人得点］植垣・東江：6点、玉城：4点、子安・内海：3点、池辺・小塩・山田・小山：1点

■8月6日（水）：Cグループ

日本　32（17－15, 15－18）33　ルーマニア

立ち上がりから山田、東江のミドルシュートなどが決まり日本ペースでゲームが展開される。DFでは3-3DFで相手11番のロングシュートを防ぎリズムを取ってきた日本だが10分過ぎからミスが続きルーマニアに3連取を許し1点差となる。しかし、そこから植垣、小山の速攻などで3連取し一気に4点差まで突き放したところでルーマニアがタイムアウトを請求。終盤に入り、一進一退の攻防が続き、日本は山田、東江のミドルシュート、ルーマニアは14番、11番のカットインなどで得点を取り合い、前半は日本が2点リードで終了。

後半立ち上がりから日本は藤江のミドルシュート、子安の速攻などでリズムを取りペースをつかむと、一気に5点のリードを奪う。しかし、そこからルーマニアは22番の力強いカットイン、18番のポストシュートなどで2点差まで詰めよる。日本も小山のカットインなどで突き放そうとするが、ルーマニアは15番の確実なサイドシュートなどで20分に同点に追いつかれる。ここで日本はタイムアウトを請求。終盤に入りルーマニアは日本の高いDFに対し、力で押し込みながら大型ポストを利用した攻撃を多用し、確実に得点を積み重ねる。日本もルーマニア9番や15番の退場でチャンスをつかむも、大事な場面でのミスが続き1点差での敗戦となった。

［個人得点］東江：9点、子安・山田：6点、植垣・小山：3点、内海：2点、藤江・池辺・玉城：1点

■8月7日（木）：9－11位戦

日本　30（16－11, 14－12）23　メキシコ

9－11位順位決定戦に回った日本は、立ち上がり植垣のミドルシュートで先制。対するメキシコは24番のポストプレーなどで得点を重ねるが、日本は山田のミドルシュート、子安の速攻などで一気に6連取をあげメキシコを突き放す。ここでメキシコはタイムアウトを請求し、その後は一進一退の攻防が続く。中盤に入り日本にシュートミスが続き20分で3点差に迫られたところで日本はタイムアウトを請求。その後日本は山田のミドル、小山のサイドシュートなどで再びリードを広げ、終始メキシコに主導権を渡さず前半を6点リードで終える。

後半に入っても日本は攻撃の手を緩めず、東江のミドルシュート、野村のサイドシュートで着実に得点を積み重ねる。またDFでもトップDF子安を中心とした3-3DFが機能し、GK加藤のファインセーブなどでメキシコに得点を許さない。その後、後半12分には9点のリードを奪い、試合を有利に展開する。しかしメキシコも19番の力強いカットインやミドルシュートなどで必死に食らいつき、25分までに5点差まで詰め寄られる。ここから日本は藤江のミドルシュート、野村のサイドシュートで連取し、粘るメキシコを再び突き放し30対23で試合終了。GK加藤、サイド野村がコートで躍動し、日本は今大会初勝利となった。

［個人得点］野村・東江：6点、植垣：4点、藤江・子安：3点、小塩・山田・村田：2点、池辺・小山：1点

■8月8日（金）：9－11位戦

日本　38（20－18, 18－18）36　トルコ

9－11決定戦2戦目はトルコとの対戦。植垣のミドルで先制した日本は、以降も高い3-3DFが機能し、内海、山田の速攻で着実に得点を重ね、序盤からペースをつかむ。対するトルコは20番、22番のパワーを生かしたカットインとミドルで反撃にでる。日本は相手が退場のチャンスを生かせず13分に一時逆転を許す。踏ん張りたい日本は、ここから植垣のミドル、子安の速攻などで一気に5連取をあげ、再びリードを奪う。20分過ぎから日本は山田のミドル、トルコは22番のロング、8番のポストなどで点を取り合う。25分から日本は小山の速攻などで3連取し、5点差とするも終盤日本にミスが続き2点差で前半終了。

後半に入ってもお互い譲らず、1点の取り合いが続く中10分過ぎから日本は子安の速攻を機に、小山、東江の速攻などで5連取しリードを6点に広げる。しかしそこからトルコも反撃にでる。49番大型左腕のロング、カットインなどで一気に2点差まで詰め寄られ、日本はタイムアウトを請求。オフェンスシステムの確認をし、植垣の速攻などで得点を積み重ねる日本。しかし、連戦の疲れからか足が止まってきた日本に対し、トルコも力強いカットインで得点を重ねる。終盤に入り点の取り合いが続いたゲームだが、終始リードを保った日本が2点差で辛くも逃げ切った。大会が始まり5連戦の疲れからかDFが機能しない場面も見られたが、選手たちはよく辛抱してくれた。

［個人得点］植垣：10点、山田・東江：5点、内海・小山：4点、池辺・子安・小塩：3点、村田：1点

[女子]

■8月4日（月）：aグループ

日本　24（9－16，15－17）33　ロシア

ロシアの№15長身バックプレーヤーの豪快なディスタンスシュートを皮切りに、日本は河田の速攻で取り返すと、ロシアも立て続けに№8のディスタンスシュートが決まる。日本は堅さからかノーマークシュートミスが続き、それをロシアが速攻で持ち込み連続得点をあげる。日本も中盤やや固さが取れ、安倍のディスタンス、河田のステップシュートなどで食らいつくがロシアの力強い1対1からポストやサイドへボールが繋がれ、連続失点。後半の最後もロシアが、カットインで得た7mTをしっかりと決め、9対16と7点差で折り返した。

後半両チームとも7mTでの得点からスタート。日本はDFで山下がロシアの大型ポストを根気よく守るがサイド、ポスト、ディスタンスと各ポジションでまんべんなく点を重ねていく。日本も河田、安倍の両エースの活躍は見られたが、サイドシュートをことごとくGKにはじかれ追い上げムードが高まらない。後半の終盤でもテクニカルミスから速攻に持って行かれ、結局33対24の9点差でタイムアップ。

［個人得点］河田：7点、安倍：6点、川畑：3点、加藤・諸岡：2点、永塚・矢崎・田中・森本：1点

■8月5日（火）：aグループ

日本　32（20－12，12－10）22　ポルトガル

河田のディスタンスシュートで先制した日本は田中のサイドシュート、諸岡の速攻などで得点を重ねる。ポルトガルも体格差を活かしたポストを使って得点し、一進一退の攻防となった。4対4の同点から川畑の速攻をきっかけに日本が5連取しリードを広げるとポルトガルもポストにボールを集め対抗した。しかし、日本は高いDFラインで相手にプレッシャーを与えると、相手のパスミスを速攻に結びつけ更に得点を重ね、前半を20対12と8点差をつけて折り返した。

後半に入るとポルトガルも更にポストを中心に攻撃を組み立て、ダブルポストで日本の退場を誘い勢いをつける。しかし日本も好調の田中、諸岡のサイドにボールを集め得点する。一時5点差まで詰め寄られるが茶園の好セーブで相手の攻撃を遮断すると、川畑、安倍の両エースが得点を重ね最後は32対22の大差でポルトガルに勝利した。

［個人得点］諸岡：8点、川畑・田中：6点、河田：4点、多田：3点、安倍：2点、加藤・竹下・永塚：1点

■8月6日（水）：aグループ

日本　32（11－19，21－19）38　メキシコ

ゲーム開始後メキシコのカットインシュートが決まり先制。日本は速攻に持ち込もうとするがミスの連続で相手に逆速攻を許す。ボールが手につかずミスが続き、攻撃のリズムが取れないまま9対1と点差を広げられる。日本は諸岡のサイドシュート、山下のポストシュートで追撃するが、相手の強引な1対1に対し、日本は受け身のDFになってしまい、DFの間を突破される。前半を19対11と8点差をつけられ折り返す。

後半に入り今大会好調の諸岡のサイドシュート、速攻で追いすがるが、相手の勢いのある攻撃を抑えきれない。後半は得点の取り合いとなり、結局差を縮められないまま終盤を迎えるが、最後まで相手のセット攻撃を止めることができないまま、38対32でタイムアップ。しかし、この試合のあとの、ロシアーポルトガルの結果2点差でロシアが勝利し、日本、ポルトガル、メキシコが勝ち点2で並び、得失点差で日本とポルトガルが同点となり、総得点で日本がポルトガルを上回り、グループ2位で決勝リーグに駒を進めた。

［個人得点］諸岡：9点、多田・田中：5点、山下：4点、河田・安倍・加藤・川畑：2点、竹下：1点

■8月8日（金）：準々決勝

日本　25（11－14，14－12）26　ブラジル

スタートはブラジル10番のポストシュートで初得点、日本はすぐさま田中のサイドシュートで応戦、その後諸岡の速攻を皮切りに田中、安倍、河田の3連続速攻でリードを広げる。日本は前半、DFが機能し相手の攻撃に対してプレッシャーを与えミスを誘った。ブラジルは5番と9番が単発でディスタンスシュートを決めるが、ミスが多く、日本に速攻で押されるケースが目立った。前半を14対11の3点リードで折り返す。

後半は日本が7mTを外すと逆にブラジルが強烈なディスタンスシュートを決め、その後日本が連続ミスでリズムを崩すと、ブラジルは7連続得点で一気にリードする。日本も諸岡の速攻や河田のディスタンスシュートで食らいつくが、ここからという場面で日本は退場者を出してしまう。残り5分で3点差をつけられたが、安倍のカットイン田中の速攻、河田のディスタンスシュートで1点差に追いつき、残り10秒を切りマイボールにするが最後は時間切れでタイムアップ、26対25で惜しくも勝利をつかむことができなかった。

［個人得点］田中：7点、安倍・諸岡：5点、多田：4点、河田・川畑：2点

■8月9日（土）：5－8位戦

日本　36（16－8，20－10）18　メキシコ

前の試合DFラインを上げ過ぎて、ポスト、カットインの失点が多かった反省を活かし、やや低めのDFラインで守るシステムに変更して臨んだ。試合序盤は速攻、カットインなどのシュートミスで得点を奪えない状態が続いた。相手もGK網谷にノーマークシュートを阻まれなかなか得点に至らない。日本は安倍のディスタンスシュートで1点目を上げると、田中の速攻、河田のディスタンスシュートで連続得点する。一方メキシコは前の試合で成功した強引な突破を封じられ、攻撃のリズムがつかめない。日本はDFが安定し攻撃のリズムもつかむと、好調の諸岡のサイドシュート、河田の速攻などで点差を広げる。日本は前半を16対8と8点リードで折り返した。

後半も立ち上がりから山下のポスト河田のディスタンスシュートなどでリードを広げると、変わって入った永塚のサイド、竹下のポストなどそれぞれ持ち味を出して得点を重ねる。メキシコもサイドやポストでチャンスを作るが、網谷の好セーブにことごとくシュートを阻まれ点差が開く展開となった。最後は36対18の大差で予選リーグのリベンジを果たし、最終日の5－6位決定戦に臨むことになった。

［個人得点］河田：7点、諸岡：6点、川畑：5点、多田・安倍・田中：4点、永塚・竹下：2点、山下・細江：1点

■8月10日（日）：5－6位戦

日本　17（9－19，8－12）31　スペイン

日本は出だし、諸岡のスピードあふれるカットインで先制した。対するスペインは、確実にポスト、サイドにノーマークを作るが、GK網谷の好セーブに阻まれなかなか得点できない。しかし、素早いパスワークで日本のDFを揺さぶり、4分過ぎ最初の得点を奪うと、続けざまにポスト、ディスタンスと連続得点をあげる。逆に日本は攻撃でテクニカルミスが続きリズムがつかめないまま前半を19対9と大きく水をあけられる。

後半に入っても相手の攻撃のスピードに押され、DFの間を突破され失点が続き、点差を広げられる。結局最後までDFが修正できず31対17の大差で敗れ6位に終わった。日本は連戦が続き体力的な面で弱さが見られたこと、GKも含めより積極的なDFで相手の連続攻撃を防ぐシステムや、攻撃ではより確率の高いシュート力、ポストの使い方など沢山の今後の課題が見つかった。

［個人得点］諸岡：5点、河田・安倍：3点、多田・川畑：2点、加藤・森本：1点

高松宮記念杯

第65回 全日本高等学校選手権大会

平成26年度全国高等学校総合体育大会

期日：平成26年8月2日（土）～8月7日（木）（競技）
会場：川崎市とどろきアリーナ他

■最終順位

［男子］
優　勝：興南（沖縄県）
準優勝：小林秀峰（宮崎県）
3　位：法政大学第二（神奈川県）、横浜創学館（神奈川県）

［女子］
優　勝：佼成学園女子（東京都）
準優勝：県立富岡東（群馬県）
3　位：香川県立高松商業（香川県）、高岡向陵（富山県）

■優秀選手

［男子］
伊舎堂博武（興南）
田里亮稀（興南）
下地利輝（興南）
宮國央芽（興南）
小玉竜誠（小林秀峰）
中村誠忠（小林秀峰）
久保慶悟（小林秀峰）
門間優次郎（法政大二）
山田暁央（法政大二）
村田　龍（横浜創学館）
庄山大地（横浜創学館）
森　大貴（香川中央）
山本晃大（大分雄城台）
安平拓馬（氷見）
松本崇雅（岩国）

［女子］
斗米菜月（佼成学園）
河原畑祐子（佼成学園）
富永穂香（佼成学園）
八木晴菜（佼成学園）
山田佳菜（富岡東）
並木梨紗（富岡東）
中村優香（富岡東）
戸阪麻友（高松商業）
谷　栞里（高松商業）
檜木祐穂（高岡向陵）
蔵　はるか（高岡向陵）
丸田くるみ（飛騨高山）
粟本結佳（四天王寺）
齋藤　光（昭和学院）
熊崎かずみ（名経大市邨）

総評　煌めく青春　南関東総体2014を終えて

神奈川県高等学校体育連盟ハンドボール専門部委員長　**本田 義昭**（桐光学園高等学校）

「君の汗　輝く一滴　勝利の雫」のスローガンのもと、全国総合体育大会・高松宮記念杯第65回全国高等学校ハンドボール選手権大会が神奈川県川崎市、横浜市にて開催されました。前回は昭和56年に行われ、33年ぶりの総体開催になります。本県において全国大会は、2004年度に選抜大会を藤沢市で行って以来10年ぶりということで、無事に開催できるか、不安でいっぱいのスタートでした。本格的に準備委員会を立ち上げ、数多くの会議を開き、細部にわたって協議、検討を行いました。しかし、いざ実施してみると全国高体連役員の方々、チーム関係者の皆様には多大なご迷惑をおかけしてしまい、この場を借りてお詫びしたいと思います。

開催に当たり、準備委員会でいくつかの重点項目がありました。初めに参加選手が記憶に残る大会にしよう。まず、開会式で入場行進を実施する。私の記憶が正しければ茨城総体で行って以来、13年ぶりのことになります。元気の良い掛け声はもちろん熱気溢れる行進は保護者の方々をはじめ、観戦の方々にも元気を与えることができ、大いに盛り上がることができました。その他、地元高校生合同チアリーデングから選手への激励は、記憶に残すことが出来たと感じました。

次に全ての会場で空調を設置、選手達が最高のパフォーマスを行える環境を整えることでした。暑い時期の開催で、選手の健康管理が一番の問題であり、重要なポイントでした。県、市、県協会、実行委員会に働きかけた結果、多くの方のご尽力のおかげで設置されました。コストのかかる事で簡単な事ではなかったと思いますが、時間をかけて折衝して頂いたお陰で希望通りにでき、感謝しております。

最後に全国大会の開催が、地元にどのような形で記憶に残せるかということでした。これに関し、県協会の方々との協議を重ね、今後の育成事業も考えた結果、小学生にハンドボールの魅力を伝えていくイベントを計画しました。講師には、ドイツリーグに10年以上所属、海外移籍の先駆者、植松伸之介氏、ドイツ、ノルウエーで活躍中の内林絵美選手の地元出身のスター選手に白羽の矢が立ちました。両名とも大変忙しいスケジュールを割き、快く承諾して頂き、大変感謝しています。

開会式前日の31日にメイン会場である等々力アリーナに小学生の歓声が響き渡り、この子たちが4～6年後に県の代表としてこの大会に出場している姿を思い描けたことは意義のある素晴らしい企画であったと感じます。

試合は一回戦より白熱した好ゲームが多く、各会場に多数の観客が来場して頂き、大いに盛り上がりました。春の選抜以降、各チームが磨いてきた技術、戦術、精神力など見ごたえのある戦いが多く、準決勝の男子は春の選抜大会ベスト4シードを獲得したチームが、3校、女子はベスト4、8のチームが勝ち上がりました。

女子決勝戦は佼成学園女子と富岡東の関東対決、6月に同じ会場で行われた関東大会決勝戦と同じ組み合わせになりました。前半から一進一退の好ゲーム、手に汗を握る接戦でしたが、大会直前まで行われていた女子ユース世界選手権日本代表を配した佼成学園女子に軍配が上がりました。

男子は、選抜優勝の興南高校とノーシードから勝ち上がった小林秀峰の対戦、立ち上がりから両チームチャンスを作るも、小林秀峰高校は興南高校GKにシュートを阻止され、徐々に点数が広がり、興南高校が勝利しました。男女ともに春の選抜、インターハイと連覇の偉業を成し遂げられた両校に敬意を表します。また、地元の法政大学第二高校、横浜創学館高校が堂々の3位入賞を果たし、より一層、会場を盛り上げてくれたと思います。

大会を終了するに当たり、ご協力いただいた（公財）日本ハンドボール協会、（公財）全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部、各地よりお集まりいただきました審判の皆様、神奈川県、川崎市、横浜市、実行委員会及び大会役員、学生ボランティア、補助員に心より感謝、御礼申しあげます。最後になりますが、2019年女子世界選手権、2020年東京オリンピック開催が決定し、今大会出場選手が活躍することを期待して、総評にいたします。

男子優勝　興南高等学校（沖縄県）

興南高等学校ハンドボール部主将　下地 利輝

春夏連覇を達成して

今大会はチームワークが光った大会でした。

3月に行なわれた春の選抜大会では、無事9年ぶり5度目の優勝をおさめることができ、優勝候補、そして選抜王者としてのプレッシャーの中でインターハイに臨みました。重要な初戦では、選手に緊張の色は見えず伸び伸びとプレーをする事ができ、チームとして良い試合感覚をつかむ事ができました。最初の山場である神戸国際高校（兵庫県）との対戦では、相手の持ち味であるリスタートを簡単にはさせず、守って速攻という形で点差を離し勝利を収めました。準々決勝、香川中央高校（香川県）との対戦では、ディフェンスが機能し、前半で25対5と相手を圧倒し準決勝に駒を進めました。しかし、全てが上手くいくわけではありませんでした。準決勝、開催地代表の法政大学第二高等学校戦では、地元の大応援団が来ており、その雰囲気にのまれ、勢いづく法政大学第二高等学校を止められず、開始10分で8対4とリードされタイムアウトを取りました。監督の「焦るな、ディフェンスからしっかりやれ」という声掛けにより、チームの緊張がとれタイムアウト直後からディフェンスが機能し始めました。自分達の持ち味である守備から速攻という形につながり逆転することができました。これで流れが興南になり、地元法政大学第二高等学校を倒し、3年連続インターハイ決勝の舞台に駒を進めました。

決勝前日のミーティングでは、支えてくれた方々に感謝の気持ちを忘れず全力でプレーして恩返しをしようと皆で話をして決勝に臨みました。

決勝戦は同じ九州代表の宮崎県小林秀峰高校との対戦となりました。序盤は一進一退の攻防が続きましたが、その雰囲気を一変させたのがゴールキーパーの宮國でした。相手選手の決定的場面でのシュートを何度となくはじき返し、そのおかげでチームは勢いに乗り前半で23対10と大量リードを奪い選抜王者としての力を見せる事ができました。後半も勢いは止まらず試合を優位に進めることができ、登録メンバー全員を決勝の舞台に立たせることができました。何より嬉しかった事は3年生全員が得点をする事ができたことです。

3年生はマネージャーの2人を含めて12名おり、苦しいときも嬉しいときも悔しいことも全員で分かち合った最高の仲間です。そして、それを下から支えてくれた2年生、1年生全員が最後まで一緒に戦った最高のチームメイトです。

こんなにも多くの仲間、そして部長、監督、コーチ、たくさんの方々に出会えたことは一生の宝物です。春・夏連覇、夏の連覇ができたのも、多くの支えや応援があったからであり、何よりも一番近くで支えてくれた「家族」のおかげだと思います。それを優勝という最高の形で少しでも恩返しすることができて良かったです。

自分達の最終目標は三冠達成です。ここで満足することなく国体での優勝に向けて、またチーム一丸となって一からスタートしていきます。そして、これからも感謝の気持ちを忘れずプレーしていきます。

女子優勝　佼成学園女子高等学校（東京都）

佼成学園女子監督　石川 浩和

第 65 回全国高等学校総合体育大会優勝

決勝戦を終えた直後から、祝いの言葉を多くの方々から直接・間接（メール）に頂戴しました。その一つ一つに感謝をお返ししながら、なぜか心が沸き立たないのが我ながら不思議でした。長い間、目指していた名誉を獲得できたのですから、歓喜が噴出していいはずですが、そうではなかったのです。的確な表現が思い当たらないのですが、強いて言えば「ほっとした」という安堵感に似たものと、「試合内容が悪かったなぁ」と悔いる思いが心を占めていました。そのため、春夏２連覇の喜びを爆発しかけていた選手たちにも、明るい顔を見せることができず、今になって考えれば、よそ目には「厳しい指導者」でしょうが、実は自分の心をそのまま選手とコーチにさらしてしまった未熟な指導者だったのを反省しております。閉会式を終えてから、ようやく選手たちに「よくやった。２冠達成はたいしたものだ。君たちは最高だった」と賞賛の言葉をかけたのですが、その時の彼女らの表情が一変して、この上ない喜びが表れました。ああ、この表情を見るのを楽しみにして春の優勝以降、厳しい練習を課してきたのではなかったかと、改めて自らを叱ったしだいです。そのあと、コートにはたてなかったものの、常に出場選手たちのサポートを続けてくれ、今日を最後に部活動を事実上引退する３年生４人を全員で胴上げし、宙に舞う者も舞わせる者も歓声と涙にくれました。

それにしても、私と主軸選手３名が世界ユース大会に出かけてしまった後、結束して練習と試合に臨んだ安藤コーチと部員たち、それを背後で支えてくれ、熱い応援を寄せてくれたた佼成学園の酒井理事長、橋本常務理事、山内学校長と同僚の教職員、保護者会と後援会の皆様、また日ごろ交誼を賜っている皆様、数え上げれば十指に余るどころか、ゆうに 200 人を上回る方々の様々な志の上に、今回の成果があることを忘れてはならないと思っています。

同時に、東京代表校の久々の優勝を喜んでくださる都ハンドボール協会・都高体連の方々、世界ユース大会との兼ね合いをご心配くださって細かいご配慮を戴いた日本ハンドボール協会の市原副会長、川上専務理事、津川強化本部長のお力にも大いに助けられました。中でも、長年、熱心に援助してくださったのに、病魔に襲われて試合会場においでになれなかった福泉後援会長に、遅ればせの優勝報告をできたのが大きな喜びです。

最後に付記しておきたいのは、これまで以上に素晴らしかった大会の運営です。神奈川県高体連ハンドボール部専門部をはじめ関係者のマネージメントスキルの見事さを実感させていただきました。試合に集中できた環境に大いに感謝しております。

戦評

【男子】

▼準決勝

興南（沖縄）　36（17－15、19－16）31　法政第二（開催地）

地元神奈川県法政二高のスローオフでゲーム開始。法政二高は11番門間の速攻やサイドシュートで得点を重ねる。今ひとつ調子のでない興南は5番田里を中心に得点するが、10分過ぎに法政二高が8対4とリードしたところで興南がタイムアウトをとる。このタイムアウトをきっかけに興南が7番下地の速攻やGK16番宮國の好セーブもあり、7対8と1点差に迫る。ペースを掴んだ興南が5番田里を中心に得点を重ね、24分には14対11と興南がリードする。法政二高も粘り強く攻撃し、前半は興南が17対15と2点のリードで折り返す。

後半、ペースを掴んだ興南は7番下地を中心に得点を重ね、9分過ぎに24対19と5点差をつける。法政二高もスピードある攻撃で反撃するが、興南の多彩な攻撃で点差を詰められず、20分過ぎには29対23と6点差をつけられる。その後、両チーム点を取り合い、法政二高は点差を縮めることができず、自力に勝る興南が36対31で勝利した。

小林秀峰（宮崎）　44（19－21､21－19）43　横浜創学館（神奈川）
（1－0、3－3）

横浜創学館のスローオフで始まった試合は、横浜創学館が運動量のあるDFとGK1番飯村の好セーブで10分までに5点のリードをつける。タイムアウトをとった小林秀峰は2番中村が次々とミドルシュートを決めて、点差を縮める。横浜創学館は退場が重なり、フィールドプレイヤーが4人になる等流れを失って一時は逆転を許すも、ラスト2分の3連取で再逆転し、21対19の2点リードで前半を折り返す。

後半は開始早々小林秀峰が3連取で同点に追いつくも、横浜創学館は安定したDFと多彩な攻撃でリードを保つ。後半22分、小林秀峰は退場によって人数が少ないながらも、2点差を追いつく。27分には横浜創学館が再び2点をリードするも、横浜創学館4番石井の退場から、小林秀峰が終了間際に同点に追いつき、試合は延長戦へと進む。

延長前半はお互い動きが固く、シュートチャンスが生まれない。小林秀峰はワンマン速攻のチャンスも横浜創学館GK1番飯村がビッグセーブ。両チーム得点することができない展開で進んだが、小林秀峰は終了間際に9番安田がミドルシュートを決め、1点リードで延長前半を終える。

延長後半、早々に小林秀峰は2番中村のミドルでリードを2点に広げる。その後も攻め込まれる横浜創学館だが、ここでも横浜創学館GK1番飯村が3本連続でノーマークシュートをセーブし、ラスト30秒で同点に追いつく。幕切れは、試合終了間際。横浜創学館GK1番飯村がセーブしたボールが、小林秀峰2番中村のもとに転がり、得点を奪った小林秀峰が44対43で決勝進出となった。

▼決勝

興南（沖縄）　41（23－10、18－17）27　小林秀峰（宮崎）

興南のスローオフで始まった前半は、興南が7番下地のステップシュートで先制するも、小林秀峰も7番三樹のサイドシュートですかさず同点にする。小林秀峰は興南の高いDFに対し攻めあぐね、7mTを外すなど波に乗れず、開始7分で興南が3対1とリードする。再三両チームが速攻を仕掛けるが、GKがゴールを阻み得点が動かない。抜け出したのは興南、7番下地がポストシュート等で連続得点、5番田里も速攻を決め、15分には9対3とリードを広げたところで、たまらず小林秀峰がタイムアウトを請求する。多彩な攻撃で得点を重ねる興南に対し、小林秀峰もエースの2番中村がシュートを決めて追いかけるが、ノーマークシュートを興南GK16番宮國がセーブし点差を広げ、23対10の興南リードで前半を終える。

後半、小林秀峰はエースの2番中村がロングシュートを決めて先制するが、興南は10番森田の速攻、3番伊舎堂、7番下地のロングシュートで3連取。小林秀峰は興南5番田里にマンツーマンを仕掛け、突破口を見いだそうとするも、興南の勢いは止まらない。興南はGKの16番宮國の好セーブからの連続速攻で得点を重ね、15分の時点で32対17の大量リードを得る。攻守に上回る興南が、終始安定した試合運びを見せ、41対27で勝利し、インターハイチャンピオンの座についた。

【女子】

▼準決勝

佼成学園女子（東京）　23（13－9、10－9）18　高松商業（香川）

女子準決勝第一試合は、高松商業のスローオフで試合開始。立ち上がり両チームともに慎重なプレーであったが、高松商業14番馬場のサイドシュートでゲームが動き出した。堅さが見える佼成学園であったが、4番河原畑のロングシュートが決まり、次第にリズムを作り攻撃。9分過ぎ、佼成学園6番大谷の2連続得点で逆転。高松商業もカットインプレー、速攻で応戦、両チームGKの好セーブもあり、一進一退の展開となった。終盤、佼成学園はスカイプレー、ミドルシュートで加点し、13対9で前半を終了した。

後半高松商業は、佼成学園のプレスディフェンスを攻略し始め、1点差に詰め寄る。13分過ぎ、佼成学園の連続得点を許し、3点差。ここからは2～3点差の攻防が続く。18分、高松商業はファールから2分間退場者を出し苦しくなる。その後、24分高松商業は再び退場者を出し、点差は4点に広げられる。残り3分5点差、高松商業も最後までがんばりを見せたが､23対18で佼成学園に軍配が上がり､連覇の夢はついえた。

富岡東（群馬）　21（9－10、12－5）15　高岡向陵（富山）

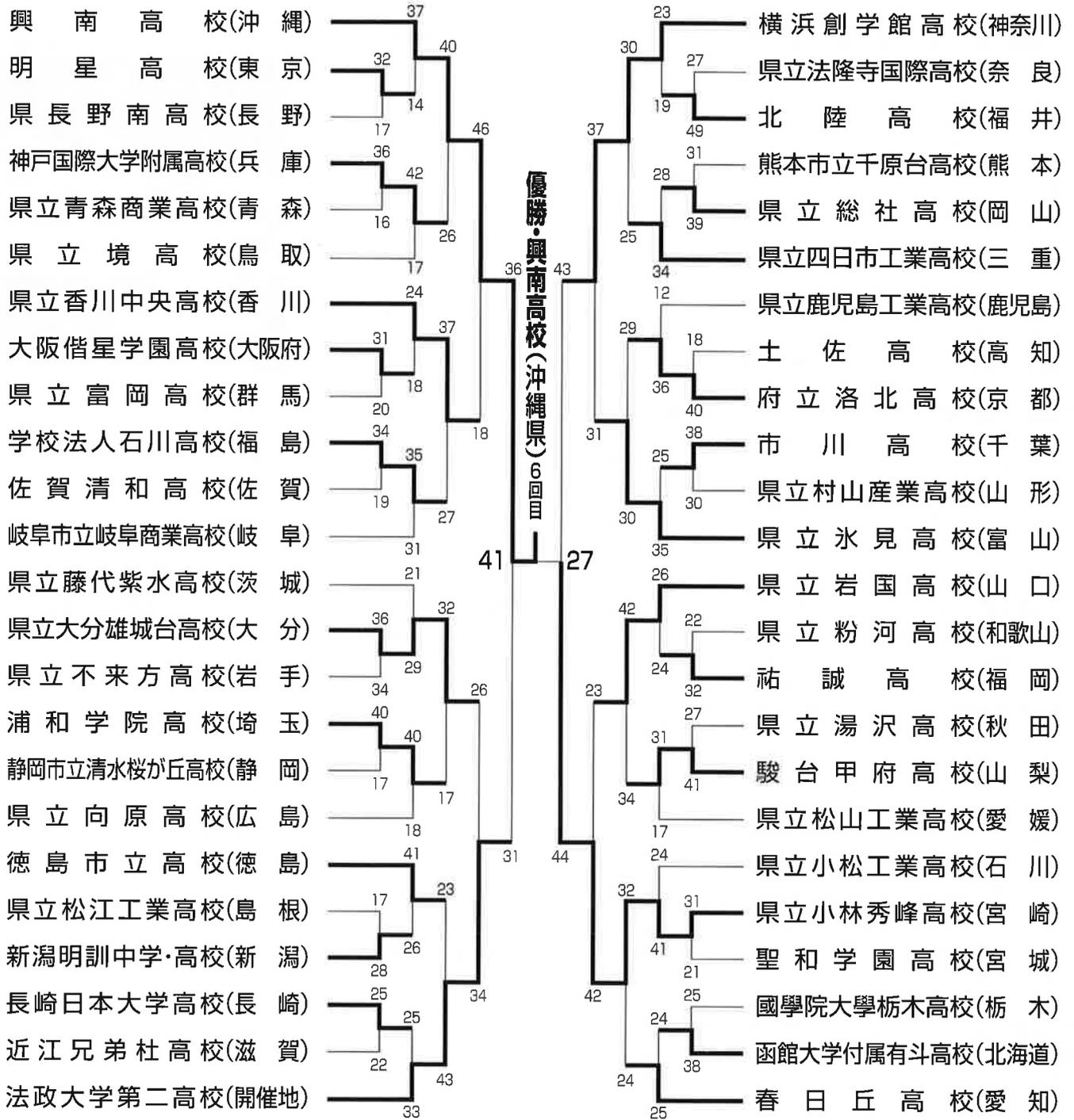
両校とも多少調子がでない立ち上がりであったが、富岡東が堅いディフェンスから相手のミスやカットから確実に得点し、6対2とリードを奪った。しかし、高岡向陵のタイムアウトから少ずつ冷静さを取り戻し、7番サイドの土平、14番サイドの島田（奈）の3連続得点によって、22分に8対8と追いつくことができ、富岡東の退場もあり、高岡向陵が10対9と逆転して前半を終了した。

後半スタート直後、富岡東6番内山の得点で10対10。高岡向陵もすぐさま2番檜木の得点で反撃、両者前半よりもアップテンポなゲームとなった。富岡東2番武藤、11番並木の活躍が光り、18分17対14と再逆転でリードし、さらに4番山田が23分に得点を決め、18対14とリードを広げ、そのまま逃げ切った。

▼決勝

佼成学園女子（東京）　32（16－10、16－14）24　富岡東（群馬）

インターハイ女子決勝は選抜優勝の佼成学園女子と関東大会準優勝の富岡東の戦いとなった。佼成学園女子のスローオフで始まったゲームは、立ち上がり佼成学園女子5番新谷のサイドシュートでスタートする。富岡東は佼成学園女子のエース4番河原畑にマンツーマンDFを仕掛ける。それに対し佼成学園女子は高めのプレスDF。前半10分、佼成学園女子はマンツーマンDFにてこずるも、2番斗米がカットインを決める。富岡東は7番木口のサイドからのゴール等で、6対5と1点をリードする。その後、両チームGKの好守もあり、引き締まった戦いが続く。16分、佼成学園女子のタイムアウトをきっかけにゲームメーカー2番斗米の連続ゴール等で佼成学園女子が9対7と逆転。富岡東は5－1DFにチェンジするが、24分に退場者が出て点差が広がり、16対10で前半終了。

後半は、富岡東がエースの11番並木のロングシュート、佼成学園女子はスカイプレーと決勝戦らしいプレーが続くが、地力に勝る佼成学園女子が、エース4番河原畑、GK1番八木の活躍で20対11とリードを広げる。後半に入っても佼成学園女子のメークのしっかりしたプレスDFはなかなか崩れないが、富岡東はキャプテン3番金庭、4番山田を中心に全力プレーを続け、カットインや速攻が決まる。15分を過ぎて、佼成学園女子に退場者が出たことをきっかけに、26対20と富岡東も追い上げるが、佼成学園女子は3番初見、7番富永のカットイン等で加点していく。残り3分富岡東はオールコートマンツーマンで最後まで諦めないが、佼成学園女子が32対24と勝利し、インターハイ女王の座に就いた。

高松宮記念杯　第65回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

男子の部

優勝・興南高校（沖縄県）6回目

決勝　興南高校（沖縄）41 - 27 ……（右ブロック勝者）

左ブロック	右ブロック
興南高校（沖縄）	横浜創学館高校（神奈川）
明星高校（東京）	県立法隆寺国際高校（奈良）
県長野南高校（長野）	北陸高校（福井）
神戸国際大学附属高校（兵庫）	熊本市立千原台高校（熊本）
県立青森商業高校（青森）	県立総社高校（岡山）
県立境高校（鳥取）	県立四日市工業高校（三重）
県立香川中央高校（香川）	県立鹿児島工業高校（鹿児島）
大阪偕星学園高校（大阪府）	土佐高校（高知）
県立富岡高校（群馬）	府立洛北高校（京都）
学校法人石川高校（福島）	市川高校（千葉）
佐賀清和高校（佐賀）	県立村山産業高校（山形）
岐阜市立岐阜商業高校（岐阜）	県立氷見高校（富山）
県立藤代紫水高校（茨城）	県立岩国高校（山口）
県立大分雄城台高校（大分）	県立粉河高校（和歌山）
県立不来方高校（岩手）	祐誠高校（福岡）
浦和学院高校（埼玉）	県立湯沢高校（秋田）
静岡市立清水桜が丘高校（静岡）	駿台甲府高校（山梨）
県立向原高校（広島）	県立松山工業高校（愛媛）
徳島市立高校（徳島）	県立小松工業高校（石川）
県立松江工業高校（島根）	県立小林秀峰高校（宮崎）
新潟明訓中学・高校（新潟）	聖和学園高校（宮城）
長崎日本大学高校（長崎）	國學院大學栃木高校（栃木）
近江兄弟杜高校（滋賀）	函館大学付属有斗高校（北海道）
法政大学第二高校（開催地）	春日丘高校（愛知）

女子の部

優勝・佼成学園女子高校（東京都）２回目

左ブロック	右ブロック
佼成学園女子高校(東京)	高岡向陵高校(富山)
県立神埼清明高校(佐賀)	県立米子東高校(鳥取)
盛岡白百合学園高校(岩手)	県立水海道第二高校(茨城)
県立柏崎高校(新潟)	県立大分鶴崎高校(大分)
県立高知東高校(高知)	聖和学園高校(宮城)
県立玉野光南高校(岡山)	県立添上高校(奈良)
県立飛騨高山高校(岐阜)	県立城北高校(徳島)
立命館守山高校(滋賀)	西南学院高校(福岡)
小松市立高校(石川)	県立栃木商業高校(栃木)
広島山陽学園山陽高校(広島)	静岡市立清水桜が丘高校(静岡)
川崎市立高津高校(開催地)	県立青森中央高校(青森)
県立浦添高校(沖縄)	昭和学院高校(千葉)
県立高松商業高校(香川)	県立富岡東高校(群馬)
浦和実業学園高校(埼玉)	大谷高校(京都)
熊本国府高校(熊本)	県立今治東中等教育学校(愛媛)
県立大曲農業高校(秋田)	松江市立女子高校(島根)
県立四日市四郷高校(三重)	県立福井商業高校(福井)
県立粉河高校(和歌山)	県立小林秀峰高校(宮崎)
県屋代高校(長野)	夙川学院高校(兵庫)
日本大学山形高校(山形)	横浜創英高校(神奈川)
駿台甲府高校(山梨)	県立佐世保商業高校(長崎)
県立鹿児島南高校(鹿児島)	北海道函館工業高校(北海道)
高水高校(山口)	県立光南高校(福島)
四天王寺高校(大阪)	名古屋経済大学市邨高校(愛知)

決勝：32 - 24

第27回
全国小学生ハンドボール大会

主　　催：公益財団法人日本ハンドボール協会
開催期日：平成26年7月31日（木）～8月3日（日）
会　　場：京田辺市田辺中央体育館、同志社大学京田辺キャンパス体育館

最終順位

■男子
優　勝：東海ハンドボールスクール（愛知県）
準優勝：北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井県）
３　位：松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（京都府）
４　位：安芸高田ハンドボールクラブ（広島県）

■女子
優　勝：神森小学校ハンドボールクラブ（熊本県）
準優勝：比美乃江ハンドボールクラブ（富山県）
３　位：東久留米ハンドボールクラブ（東京都）
４　位：薪小学校ハンドボールクラブ（京都府）

総　評

（公財）日本ハンドボール協会小学生専門委員長　山本　繁

7月31日（木）から8月4日（日）まで、今年も京田辺市において「第27回全国小学生ハンドボール大会」が開催されました。全国から男子35チーム、女子33チームが都道府県代表として参加し、熱戦を繰り広げました。試合会場では、明るく元気な挨拶が交わされ、他チームとハイタッチするなど微笑ましい姿も見受けられ、全国各地の小学生チームがハンドボールを通して交流する姿は、清々しいものがありました。

レフェリーも、日本協会審判部が担当するようになって5年、昨年からはすべての試合にTDを配置し、より正確で円滑な大会運営に努めました。

また今年も、開会式の前にNTSのU-12講習会を開催し、今後小学生チームが向かうべきゲーム展開の方向性も示されました。①積極的なディフェンス（オープンディフェンス）、②オールコート速攻（素早いゲーム展開）、③瞬時の判断と正確な選択、について研修を深めました。今年もこれらの講習内容を実践しているチームが勝ち残っているようでした。

勝敗の行方は、男子が東海ハンドボールスクール（愛知県）が2連覇、女子は神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）が10年ぶり4度目の優勝を飾りました。

今年も東北地方からの参加がなく、淋しいところです。参加に向けた取り組みも、今後の課題です。

U-12伝達講習会の様子

男子優勝

東海ハンドボールスクール（愛知県）

東海ハンドボールスクール　濱野 健一

これまでの経験が導いた連覇

昨年、歓喜に沸いた初制覇から一年。「今年は連覇するぞ！」選手達が立てた目標を胸に、今年も京都へやってきました。昨年の帰路、来年も優勝するぞ！と、今年の選手達が士気を上げていた事を思い出します。選手達を取り巻く皆さんからは、常に連覇の声をかけて頂ける期待がありました。選手達は意気込むものの、大会が近付くにつれ不安な日々を過ごしてきたと思います。しかし、自分達がやってきた練習が自信となり、それが後押ししてくれたのでしょう。初戦から、その実力を爆発させてくれました。

今年も一昨年の教訓から、ステップワークや投げ方などの基礎から確認を行う事にしました。やはり昨年同様、最初はつまらない練習だったと思います。しかし、選手達は今年も一生懸命取り組んでくれました。選手達は序盤こそ精度が上がらない技術レベルでありましたが、他チームとの交流試合で、やってきた事が徐々に機能し出した事を実感してくれ、やっていることが間違いでないと確信してくれたと思います。

今回のチーム作りには、大会を迎えるまで昨年同様に東海、北信越、関西のチームに加え、今年は関東のチームとも交流ゲームさせて頂きました。数多くの練習、ゲームをさせて頂く中で、お互いに切磋琢磨できた事が、後のチーム力UPへ大きな影響を与えてくれました。改めて、交流を深めさせて頂いたチーム様へ感謝いたします。

大会を通じて感じたのは、これまでの経験が選手達へ非常に大きく作用したという事です。これまで８度の出場経験は勿論、昨年の優勝で自信を持って大会に挑み、酷く緊張する選手が出ませんでした。その結果、持ち前のDFが安定して機能し、今回の結果へ繋がったと思います。また、経験と言えば、昨年のメンバー、そして今年のメンバーは日韓交流を経験させて頂いた選手達です。５年生、４年生の時に韓国へ渡り貴重な国際交流を経験した選手達が、このような結果を実らせました。我がチームにかかわらず、これまで経験したチームへも良い刺激となりチーム力が向上しております。U-12日韓交流が確実に成果を挙げていると言えるでしょう。

東海ハンドボールスクールは、ご存じの通り大同特殊鋼ハンドボール部を中心としたフェニックスファミリーの一員です。大会前には、大同特殊鋼の選手、大学、高校、中学の選手から沢山の応援メッセージを頂きました。チームの目標でありながらも、ファミリーの皆さんが背中を後押ししてくれた全国制覇であります。二連覇を目指し、頑張った子供達と、自分の事の様に真剣に取り組んでくれるコーチ。昨年同様に多い遠征にも、文句も言わず気持ち良く送り出してくれ、大会では日本一のバックアップをしてくれた保護者。フェニックスファミリーの皆様。その他、東海ハンドボールスクールへご尽力頂いている全ての皆様へ心から感謝申し上げます。今後とも、選手・スタッフ・保護者・地域が一体となって頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、素晴らしい大会運営をして頂いた、京田辺市、京都府協会をはじめ、大会運営へ携わった皆様へ心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

女子優勝

神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）

神森小学校ハンドボールクラブ　翁長 誠光

第27回全国小学生ハンドボール大会の運営に協力頂いた京都府ハンドボール協会始めスタッフの皆さん、素晴らしい大会を開催して頂きありがとうございました。

神森小学校女子ハンドボールクラブは、10年振りに全国大会出場する事が出来ました。10年前というと同一県同一校での初の男女アベック優勝した年です。その間男子チームは、何度か全国大会出場しましたが、女子チームはメンバーが揃わず10年間も悔しい思いを続けていました。

今年のチームは、久しぶりに6年生が9名と多く、2年計画でチーム作りをしました。4年生の頃は、些細な事でケンカばかりして毎日が大変だった事を覚えています。5年生の頃からチームワークも良くなり、全国大会優勝を意識した練習態度に変わっていきました。又、男子チームは5年生主体ではありますがスピードがあり、昨年の全国大会準優勝メンバーが大半残っている事から日々互いに切磋琢磨しながら日々練習に取組んでおり、今回の優勝も男子チームの協力があったからこその結果と思慮します。

沖縄県大会で優勝し、全国大会出場が決まってからの約1ヶ月半は、徹底してDFを強化しました。相手チームや試合の流れの中で臨機応変に対応出来るように複数のDFシステムを練習しました。今大会の大きな山場でした、昨年全国大会3位の準々決勝大分県代表　日岡HC戦では、4-2DFが見事に機能し、勝利を収める事が出来ました。その勢いで、神森小学校ハンドボールクラブのモットーである『エンジョイハンボール』・『守って速攻』を最後までやり遂げた結果、全国大会優勝という素晴らしい結果に繋がったと思慮します。

子供たちには、感謝の気持ちで一杯です。又、父母会長を始め父母会の方々にも支えられて2014年夏の素晴らしい思い出に感謝しています。

【選手から一言】

田場心晴（6年）主将：神森男子・お父さん・お母さん応援ありがとう。楽しい大会でした。

兼城桃花（6年）GK：支えてくれた人皆に感謝　アイ・ラブ・ユー

久場川かりん（6年）：練習を手伝ってくれた神森男子感謝しています。優勝とったどー。

東江莉佳（6年）：お父さん・お母さん応援ありがとう

新垣裕未（6年）：しきえコーチ　ありがとう

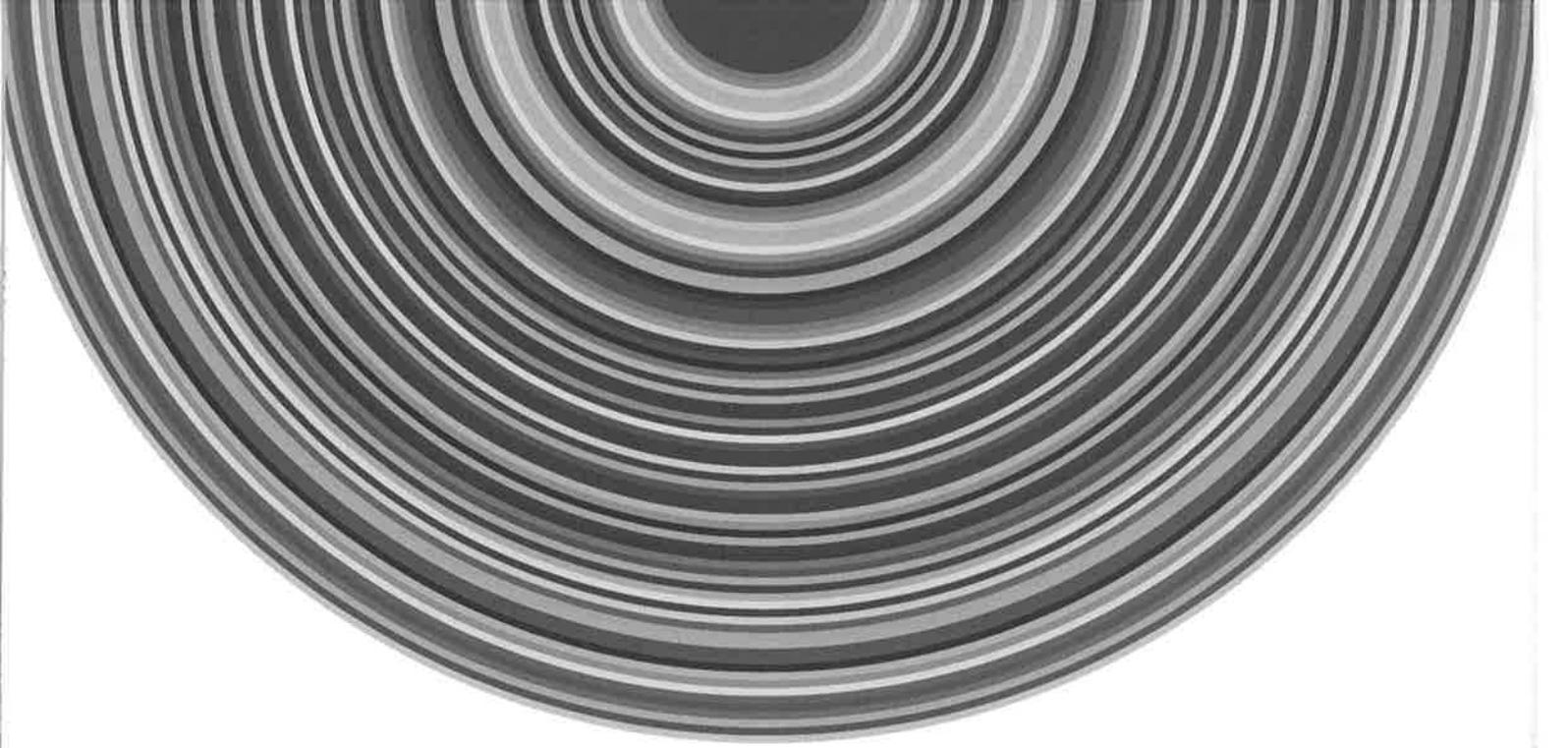
宮城ひまり（6年）：素晴らしい経験が出来たのは沢山の人に支えられたお陰です。ありがとう

池原果音（6年）：チームのみんな本当にありがとう

新里ゆい（6年）：支えてくれたみんなに感謝

西原有愛乃（5年）：お父さん・お母さん　ありがとう

譜久村咲姫（5年）：いつも応援してくれてるお母さんありがとう

（4年生以下省略）

総　評

和歌山県ハンドボール協会事務局長　山本 隆重

台風11号の接近とともに、第19回ジャパンオープンハンドボールトーナメントは幕を開けることとなりました。

和歌山県では、来年の『紀の国わかやま国体』に向けて、その準備に鋭意取り組んでいるところです。しかしながら、全国規模の大会運営の経験不足と、運営スタッフの少なさ等により、開催準備は手探りの状態が続いています。そのような中で、国体リハーサル大会として開催した本大会。台風の接近により、開催自体も危ぶまれましたが、無事終えることができました。

大会は、男子では、地元和歌山県のHC和歌山を2回戦で破り、決勝では前年優勝の長崎社中に前半で5点リードされながら後半20分までに追いつき、最後まで結果がわからない熱戦を制した千葉県のFOGが、女子では、7連覇中の香川銀行T・Hが、初戦から危なげない試合運びで順調に勝ち進み、決勝でも圧倒的な力を見せつけて、それぞれ優勝となりました。優勝されたFOGと香川銀行T・Hの皆様、おめでとうございました。また、各会場において熱いプレーを展開された全ての選手・役員の皆様、ありがとうございました。

和歌山県は、県の人口そのものも少なく、かつハンドボール競技の認知度も低い傾向にあります。本大会、また来年の国体において、トップクラスの大会を開催することは、広く県民にハンドボールをアピールできる絶好の機会であると捉えています。本大会でも、女子決勝戦では、HC和歌山が戦うということもあって、多くの観客が来場し、大きな盛り上がりをみせました。地元チームの活躍は、大会の盛況に繋がり、また新しい仲間の獲得に繋がる可能性があるということを実感した大会でもありました。

アップ会場の不足、空調設備のない体育館、また、台風の接近により、初日、2日目と、高校生補助員が使えないという事態の中、2会場において雨漏りが発生するなど、決して快適とは言えない競技環境ではあったかとは思います。しかしながら、和歌山県ハンドボール協会では、来年の『紀の国わかやま国体』に向けて、この経験を活かして、全国から来ていただく皆様に、「和歌山で試合が出来てよかった。楽しかった。」と思ってもらえるよう、開催市実行委員会と連携しながら準備を進めていきます。

最後になりましたが、開催にあたり多くの助言をいただきました日本ハンドボール協会の皆様、競技を支えてくださった近畿各府県の皆様、そして審判員の皆様、国体準備でお忙しい中、時間を割いてアドバイスいただいた長崎県ハンドボール協会の皆様、おかげさまで、本大会を無事に終えることができました。本当にありがとうございました。引き続き、『紀の国わかやま国体』に向けて、ご助言とご協力のほど、お願い申し上げます。

『紀の国わかやま国体』は、今大会で使用できなかった和歌山ビッグホエール、現在建設中の紀の川市立体育館（仮）と、河南総合体育館・和歌山工業高校体育館・岩出市立体育館の5会場で、来年の9月28日(月)より開催される予定です。和歌山県ハンドボール協会一同、皆様のお越しを心よりお待ち申し上げております。

男子優勝

ＦＯＧ（千葉県）

FOG　富久 悠輔

チームの皆が、まさか優勝できるとは思っていなかった。目の前の一試合一試合を必死に戦い抜いた結果が初優勝。誰もが驚き、喜んだ。今年はメンバーが例年よりも少なく、また練習にこられるメンバーも少なく正直今年は難しいんじゃないか…年明けの段階でそういう雰囲気があった。２年連続準優勝の時のメンバーは２、３人しか残っておらず、ほぼメンバーが入れ替わった新しいチームという感じ。

しかし、新年度が始まるころには新メンバーが何人か加入し、戦える状態に何とかなってきたかな？という雰囲気に。ただ、新メンバーが入ったものの平均身長が相変わらず小さい。それに身長の小ささから例年通り速攻主体のチームに…と考えていたものの、練習の少なさからか速攻の形が悪く得点力としては望めない事がしばしば。さて困った。

しかし、チームとしては今までよりも団結することができ、色々な場面で何をすべきかの共通認識を全員で持つことを練習し、苦しい時、得点が止まった時にチームとしてどうすれば良いのか？ということを大学生や社会人との練習試合を通じてチームに浸透させた。

その結果、和歌山戦・岐阜戦と苦しかった２試合を接戦で制することができ、そして２年前に延長の末に敗れたHONDA戦では前半で一気にいけるところまで行こう！というミーティングで話していたことを実践出来た。

決勝での長崎社中戦。みんな身体は満身創痍。他のチームのようにトレーナーはおらず、身体のケアは自分たちで何とかやっているものの、それも限界。正直ここまで来たら御の字、という気持ちとここまで来たら優勝も…という気持ちと半々。前半を終えて負けているものの、まだ何とか食らいついている状態。和歌山・岐阜戦同様、前半はこらえて踏ん張っての後半勝負。後半じわじわと追い上げる。そして終了間際での１点差での勝利！

今まで何年もの間に土台を作り支えてきてくれた先輩方、そしていつも共に練習をさせてもらっている市川高校の応援も含め、またこれからも一試合一試合を大切に全力で戦っていきたいと思う。

女子優勝

香川銀行Ｔ・Ｈ（香川県）

香川銀行副主将　中久保 裕美

第19回を迎えるジャパンオープンでは、８連覇を懸けた大会となりました。参加するチームのレベルが年々上がっていく中、優勝の回数を重ねるたびに連覇を途切れさせてはいけないという思いや実業団として負けられないことなど、プレッシャーは大いに感じていました。チームとしては怪我で２名を欠き万全とはいえない状況でしたが、香川銀行らしい「ディフェンスから速攻」というカラーを日々の練習で追求していきながら、今大会に臨みました。

初戦から準決勝までは順調に勝ち進んでいき、決勝戦を迎えた相手は、来年の国体開催県の強化チームでもあるHC和歌山との対戦となりました。序盤から一進一退の攻防が続いたものの、前半20分過ぎからピボットへのパスを誘い速攻へ繋ぐというディフェンスが機能し始め、そこから一気にHC和歌山を引き離すことができ、勝利を収めることができました。

今大会は怪我で欠いた者たちの穴を埋めることでチーム全体の底上げにも繋がり、今後の国民体育大会や全日本総合選手権大会に向けてのステップにもなったと思っています。

これからもこの結果に満足することなく、香川銀行チームハンドらしく辛いことや厳しいことにも全力で立ち向かい、笑顔を絶やすことなくチーム全員で乗り越えて、連覇の数字を積み上げていきたいと思います。

８連覇を成し遂げて、続けていくことの重みを改めて感じ、歴史を作ってもらった香川銀行に関わる皆様方や保護者・OGの方々、香川県ハンドボール協会の方々、香川銀行チームハンドを応援して下さっている大勢の皆様のお蔭だと心から感謝申し上げます。

最後に、今回は台風上陸で会場準備や競技運営にも影響があった中、和歌山県ハンドボール協会の方々や、競技役員・補助員の多くの方々のご尽力に厚く御礼申し上げます。

戦　評

男　子

■3位決定戦

HONDA　22（10－11，12－7）18　トヨタ紡績九州レッドインパルス

3 位決定戦、HONDA 対トヨタ紡織、実力のある両チームの対戦となった。HONDA のスローオフで試合開始。前半 2 分先取点は HONDA の 8 番伊藤のサイドシュートが決まる。9 分、トヨタ紡織 8 番佐久間のサイドシュートがきまる。それから 20 番藤山のロングシュートが立て続けに 2 本決まり 4 対 4 の同点となる。中盤以降 HONDA8 番伊藤、トヨタ紡織 20 番藤山を中心にシュートを重ねる。終盤 28 分過ぎにトヨタ紡織 11 番阪が退場となり HONDA8 番伊藤の 7m スローが決まり、11 対 10 でトヨタ紡織 1 点リードのまま前半を終了した。

後半開始トヨタ紡織一人少ないメンバーで試合が開始される。トヨタ紡織退場者が戻り、ディフェンス隊形を 2：4 に変更する。8 分 HONDA13 番瀬元が速攻を 2 本決め 14 対 14 の同点、7 番早川のポストシュート、11 番野嶋のリバウンドからのシュートが決まり 2 点差となった時点で、トヨタ紡織がタイムアウトをとる。18 分過ぎトヨタ紡織 11 番阪が退場となり 7m スローとなる。HONDA8 番伊藤がシュートを決める。その後退場者は戻るが試合の流れは HONDA に傾き速攻からの 4 連続得点で 21 対 15 と点差を広げる。終盤トヨタ紡織 11 番阪のポストシュート、20 番藤山のロングシュートと 7m スローの 3 連続得で粘りを見せ追い上げるが 22 対 18 で HONDA が勝利した。予想通りの好ゲームで見応えのある試合だった。

■決勝

FOG　21（8－13，13－7）20　長崎社中

ジャパンオープン男子決勝は、決勝戦にふさわしい好ゲームとなった。

長崎社中と FOG による決勝戦は、立ち上がり 2 分過ぎまでは膠着した展開。FOG9 番篠田のサイドシュートにより試合が動き出すも、両チームのゴールキーパーの好セーブもあり、一進一退の攻防が続く。しかしながら、前半 19 分過ぎ、FOG1 番田中のセーブしたルーズボールを、長崎社中 10 番井沼田が冷静に決め、長崎社中が 2 点をリード。たまらず FOG がタイムアウトを申請し、流れを変えたいところだったが、タイムアウト明けに 1 名を 2 分間退場で欠き、流れは一気に長崎社中のものに。前半は 13 対 8、長崎社中 5 点リードで折り返した。

後半、巻き返しを図る FOG は、ディフェンスからの速攻が決まりはじめ、FOG13 番小川などの活躍により、後半 11 分ごろには 2 点差まで詰め寄る。FOG は、低い位置で守ってロングを誘い、FOG1 番田中がセーブしてからの速攻で、後半 18 分にはついに 17 対 17 の同点に追いついた。勢いにのる FOG はその後逆転するも、長崎社中は 8 番竹田によるパスカットからの速攻を決めて流れを離さない。最終盤は、両チームとも攻守ともによく足が動き、ベンチも含めた気迫みなぎるプレーで、引き締まった展開となるが、後半 29 分、FOG3 番佐藤のカットインが決まり、21 対 20、その後の長崎社中の攻撃をしのいだ FOG が逃げ切って、優勝を決めた。

女　子

■3位決定戦

京都クラブ　25（12－14，13－6）20　シーコルズ

3 位決定戦、京都クラブとシーコルズの対戦。シーコルズのスローオフで試合開始。開始早々シーコルズ 5 番親泊のロングシュートが決まるが、すぐに京都クラブ左利きの 6 番泉本がロングシュートを決め同点とした。その後シーコルズは多彩な攻撃で着実に点を決めたが、京都クラブ 2 番坪井のロングシュートが要所で決まった。また、5 番上村のはつらつとしたプレーできっかけを作り、15 分に同点に追いついた。その後一進一退で点の取り合いとなった。シーコルズの 2 番西銘の華麗なサイドシュートと 17 番新城の速攻をきっかけに 3 点差に広げ、京都クラブがすかさずタイムアウトをとった。すぐさま京都クラブは 7 番鐘ヶ江がロングシュートで反撃し、前半を 12 対 14 で折り返した。

後半始めに京都クラブの 6 番泉本、7 番鐘ヶ江が鮮やかにロングシュートを決め、逆転した。その後シーコルズは 5 番親泊がロングシュートを決め、同点にした。後半 11 分すぎに京都クラブが退場者を出し、その間にシーコルズは数的優位を利用し、17 番新城が絶妙なカットインで得点を決めた。後半 15 分京都クラブは 5 番上村のカットインで攻撃のチャンスを作ったり、サイドからのスピンシュートをきっかけに流れをつかみ 5 点差に広げ、25 対 20 で勝利を収めた。

■決勝戦

香川銀行Ｔ・Ｈ　33（15－9，18－12）21　ＨＣ和歌山

決勝で 7 年連続優勝の香川銀行Ｔ・Ｈに対して、来年度国体開催 HC 和歌山がどう食い下がるか楽しみなカードとなった。ゲームは両チームとも激しいコンタクトの応酬から始まった。先手を取ったのは香川銀行Ｔ・H4 番沢井のサイドからのシュートで点を取った。HC 和歌山は 6 番中村からの絶妙なパスで 4 番吉田が決め 10 番長尾、2 番東もロングシュートを決め 3 対 1 とした。その後、香川銀行Ｔ・H4 番沢井のサイドシュートと 10 番土井の速攻で同点とする。15 分 HC 和歌山 6 番中村、2 番東の退場で香川銀行Ｔ・Ｈが数的優位に立つが、HC 和歌山 GK12 番坂田の好セーブでねばって守り抜いた。しかし、香川銀行Ｔ・H14 番太田と 2 番重信などの速攻で差が広がり、15 対 9 で前半を折り返した。

後半スタートもスピード感あふれる試合を展開し、HC 和歌山はクロスや 4 番吉田の中継ポストを交えた多彩な攻撃を見せる。香川銀行Ｔ・Ｈの積極的に詰めてくるディフェンスからの速攻で 13 番荒木、4 番沢井が決めた。しかし、HC 和歌山は必死に足を使って守り抜き、4 番吉田と 2 番東のポストシュート、8 番竹中のロングシュートで反撃したが力及ばなかった。

試合は香川銀行Ｔ・Ｈが制したが、最後の最後までスピードとパワー溢れる試合を展開した両チームに拍手を送りたい。点差こそ開いたが、大変見ごたえのある好ゲームであった。香川銀行Ｔ・Ｈは 8 年連続優勝を果たした。

平成26年度
第22回全日本マスターズハンドボール大会

期日：平成26年8月1日（金）～8月3日（日）
会場：浦添市民体育館、浦添市屋内運動場、八重瀬町東風平運動公園体育館、奥武山総合運動場武道館アリーナ棟、浦添市陸上競技場

総評　平成26年度第22回全日本マスターズハンドボール沖縄大会を終えて

競技委員長　**小山 哲央**

開会式・競技運営委員会

8月1日午後2時から浦添市民体育館会議室で開会式が行われました。実は8月1日の午前中に、発達した台風12号が沖縄を直撃し、会場は激しい風雨にみまわれ、交通機関は大混乱し、航空関係も午前中那覇空港到着便は上空を何回も旋回した後に出発地に帰って行きました。台風に出端を挫かれ、この先どのような展開になるのか心配しました。開会式開始時は6割程度の出席で空席が目立ちましたが、徐々に席が埋まり、引き続き行われました競技運営委員会終了時には参加チームの8割以上が出席して下さり、一安心しました。参加チームの皆さんが何が何でも会議に間に合うように土砂降りの中を駆けつけて下さった、この大会への思いに感激いたしました。

第11回11人制マスターズ（競技Ⅳ）

8月1日午前9時会場である浦添市陸上競技場に集合する。9時30分より準備を始めるが、暴風・豪雨で陸上競技場の使用を断念し、急遽隣接する屋内球技場に変更する。屋内球技場は野球の屋内練習場で公式のハンドボールコートが余裕を持って2面作ることが出来る広さがある。表面は人工芝と砂で転ぶとちょっと危ないかなと気になりましたが、思いの外使い勝手が良かったです。ゴールポストはサッカー用を運ぶことは困難でしたからハンドボールのゴールポストを2個並べて代用しました。

コート完成後、コート作りを手伝いに来て下さった地元の浦添商業高校の部員と11人制の試しの練習試合を行いましたが、サイドラインが通常より30m位短かった分、逆にボールをシュートエリアに早く運べる為、試合展開がスピーディでこの広さでも十分に11人制ハンドボールを楽しめることがわかり、胸を撫で下ろしました。

大会は台風の影響で選手が集まらず前日に沖縄入りした3チームでとりあえず始めその後は漸次、選手が揃ったチームが試合を組むという変則大会になりました。最後には100人以上の選手が集まり参加7チームが2～3試合を楽しむことが出来ました。

第22回7人制大会

競技Ⅰ（交流型）・競技Ⅱ（順位決定型）・競技Ⅲ（男性60歳以上女性50歳以上）の3つのカテゴリーに分かれ、台風の影響で2チームが不参加でしたが、男女62チームが浦添市民体育館他三つの体育館計8面のコートを使用し、ハンドボールを楽しみました。

このカテゴリーについて歴史的な話をしますと、第9回大会までは交流型だけの大会でした。その後、参加チーム数が増加したことと、元ナショナル選手や実業団のOB等力のある選手が出場するようになり、第10回記念大会から交流型と順位決定型の二つのカテゴリーに分け、大会を実施しました。この当時はどちらのカテゴリーも大会趣旨に則って、大会に参加していましたが、近年は少しずつ大会趣旨から逸脱しているように感じるようになりました。

又、競技Ⅲ（男性60歳以上・女性50歳以上）のカテゴリーは昨年度の花巻大会から実験的に行い、今年度も継続し、4チーム60名の選手が参加して下さいました。このカテゴリーは東京都社会人連盟が開発した、得点ハンディキャップ制を採用して行っております。このカテゴリーが今後の大会運営に何らかのヒントになるのではないでしょうか。このように年齢を区切る方法や得点ハンディキャップ制などの工夫を加えることによりハンドボールが生涯スポーツとして更なる発展をすることを確信しております。その為には参加チーム数が広い年代に渡って更に増えることと、どのような大会運営をしていくかが「鍵」だと思っております。

マスターズ大会は競技スポーツとは一線を画した、何歳になってもハンドボールを心から楽しむ生涯スポーツであることを私自身もう一度肝に銘じて、初心に帰り今後の大会に取り組む所存であります。皆様方のご協力とご支援を宜しくお願い申し上げます。

尚、来年度は7月31日～（金）8月2日（土）の期間に愛知県豊田市で開催する予定です。

男子優勝
GHBP ARES

GHBP ARES 主将　高野　悟

台風の影響で開催が危ぶまれましたが天候は回復し、全競技が予定通りに行われました。私達「GHBP ARES」は順位型にエントリー。ディフェンディングチャンピオンの肩書を背負い、今大会に臨みました。

結果は「優勝！大会２連覇！」を達成する事が出来ました。チームの喜びの声を伝えさせて下さい！

No. 2 外山展行：やったぜ２連覇！ ARES 最高！沖縄最高！

No. 3 中川善仁：40 歳をすぎて、こういう機会を与えてくれた皆さんに感謝です。

No. 4 天間正樹：GHBP ARES の絆　最強＆サイコー！

No. 5 高野悟：共に挑み！共に戦う！友に感謝！

No. 7 高井龍哉：最高最強の仲間との２連覇！来年も頂点を目指します

No. 8 斉藤太嘉男：ARES に携わってる皆さんに感謝です！！来年もこの喜びを仲間達と共有したいです！

No. 10 広政宜孝：まだ真剣にハンドボールを続けられる事、協力して下さった全ての方々、ARES のみんなに感謝してます。

No. 11 松本賢：悲願の日本一！ GHBP ARES 最高！！

No. 13 小沢勝利：２連覇当たり前！最強最高のファミリーだから

No. 16 本郷哲史：『優勝できてホントうれしいです』約 24 年前と同じコメントで。

No. 17 西村雅樹：ARES 最高～♪目指せ V3 ！

No. 20 山口武仁：全員で勝ち取った優勝！素晴らしい ARES の一員であることに感謝！

No. 21 西谷義宏：念願の日本一最高！ ARES も最高！！

No. 23 長原武志：学生時代の忘れ物「日本一」を最高の仲間とゲット！

No. 24 西村和彦：ARES の強さは絆の強さ！

No. 31（監督）酒井裕央：願いは叶う！

No. 45 斉藤義昭：しっかりトレーニングして来年も優勝狙います！

No. 56 増井大悟：やっぱり１番は良い！

No. 91 井出浩二：優勝最高～ ARES 最高～

チームトレーナー天間琴美：２連覇 !! バンザ～イ！！ARES の強さに感動しました♪

北は北海道から南は愛知県とメンバーは離れていますが、個々がトレーニングを重ね、関東に集まり大学巡りなどで力を蓄え絆を深めて来ました。時に東北へ足を運び 2011 の震災以降、苦しい環境下でハンドボールを頑張る子供達とのスポーツ交流も率先して取り組ませて頂いてきました。GHBP ARES は今後もハンドボールでの復旧・復興・楽しさを伝える為に多くの方と交流を深め、日々精進し一同頑張って参ります！

最後に、沖縄大会運営の方々、対戦チームの方々、大切なチームメイト・監督・トレーナー・コーチ・応援してくれた多くの方々に感謝を伝えたいと思います！ありがとうございました！！

女子優勝
御座姐

御座姐キャプテン　多田 貴代子

「4 連覇というプレッシャー」

去年の３連覇したときの感動から、あっという間に１年たちました。今年は新しい若手中心のチームが加わり、「○○でやってた人がいるよ」「○○がすごいよ」というよくある事前情報だけが飛び交い、ますます不安になる「御座姐」メンバー。新たなメンバーも加わる中､ベテランメンバーが減る。今年も去年同様、交代メンバー１人。新チームの事前情報に加え追い打ちをかけられる弱気な気持ちの中、いざコートに立つと！やっぱりみんなの思いは一つ !!　4 連覇★優勝★目標 !!

マスターズの年齢になるとそれぞれの身体の調子も自分でだいたいわかる。アップもそれなりに追い込まないといけないことはわかっている。「しんどい、もう無理、疲れた、身体動かない」など、好き勝手な言葉が飛び交う。それは試合中でも同様。「御座姐」は大会前に全員が集まって練習することはない。例年ぶっつけ本番。個々のモチベーションを保つ意味でも言葉は大切。だから、言葉にして確認する、自分の状態を言いあう、先輩後輩関係なくプレーへの要望を瞬時に伝える。ほんと不思議とプレーできるんです「御座姐」というチームは。

また、今年は応援にかけつけてくれた若手のバックアップもありベンチがどれだけ試合に必要かということを改めて感じることもできました。外から見るハンドボール、コート内ではわからないチームの状況のアドバイスに感謝です。

今年はキャプテンに自ら手を挙げ、４連覇というプレッシャーから始まり、４連覇という達成感で終われ、「御座姐」の新たな１ページを今年も作れたことに幸せいっぱいです。また来年も、このメンバーでそして５連覇目指して「御座姐」はやりますよ !!

最後になりましたが､マスターズ協会の皆様､設営運営に携わって下さった関係者の皆様ありがとうございました。

～打てば響く広報体制を～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

今月末にはいよいよ日本リーグが開幕する。レベルアップへこれまで以上の“格闘技”プレーを期待したい。

さて、過去何度もこの場を借りて触れてきたが、近年あらゆるスポーツの分野でメディア対策に真剣に取り組んでいる。とりわけ６年後の東京五輪対応として、さらに激化するのは必至だ。乗り遅れることは、その競技が時流に取り残される懸念さえある。それほど現状は厳しいことを、まず念頭に置くべきだろう。

一つの例を挙げよう。

日本リーグ開幕に先立って８月初旬、JHL ジュニアリーグが開かれた。日本リーグ機構が社会貢献と地域密着の一環としてリーグ加盟チームのジュニアチームを対象に行っている活動の一つで、2011 年に始まった。

この大会に関してのメディアリリースはなんと前日である。HP には数日前にアップされているとはいえあまりにも遅すぎはしないだろうか。日本リーグの日程は事前に発表されるが、こうした他のリーグ機構の年間スケジュールの発表はない。リーグ日程告知に合わせて公表すべきだろう。その時点で期日が未定なら大会名だけでも構わない。こうした状況を見れば、いくら「よろしく」と呼びかけても、メディアの関心は高まらないだろう。

また、日本代表の合宿にしても同じようなことが言える。今年は何度も合宿（候補を含む）を行い、海外遠征もこなしている。その都度、メンバー発表は出来ないのだろうか。８月、男子のフランス遠征でも結果をアップしただけだ。また、過去の例では合宿メンバーを発表しても、参加を辞退したり、途中にケガやチーム事情でリタイアした際の対応は全くない。

日本代表だけではない。今季だけの日程を見てもジュニアやユースなど多くの国際大会が目白押しだ。こうした代表メンバーの露出も６年後を見据えれば、欠かせないのはもちろんである。それによって彼、彼女らの取り組む姿勢が変化するのは明らかである。確かに強化のための練習も重要だが、周囲が注目する環境づくりも代表サポートの大きなポイントである。

リオ五輪予選クリアに真剣に向き合うのであれば、こうしたきめ細かな対応は欠かせない。

メディア対応がきっちりこなせる人材確保（専任）が重要だし、そうした組織の構築が重要であることは言うまでもあるまい。受け身ではなく、逆にもっと積極的な仕掛けができるような意識改革が必要だろう。「打てば響く」広報体制確立は、今後のハンドボール界の命運を握っているといっても過言ではあるまい。2019 年には女子世界選手権もある。一考を願いたい。

平成26年度 第17回ハンドボール研究集会報告

学校体育ハンドボール検討専門委員会委員　**丸井 一誠**

1．期間　平成26年7月28日（月）、29日（火）
2．主催　公益財団法人　日本ハンドボール協会
3．主管　茨城県ハンドボール協会、つくば市ハンドボール協会
4．後援　文部科学省、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会、土浦市教育委員会、常総市教育委員会、牛久市教育委員会、守谷市教育委員会、坂東市教育委員会、つくばみらい市教育委員会、行方市教育委員会、筑波大学体育系
5．会場　筑波大学体育専門学群・中央体育館
6．実施内容

【7月28日（月）】
開会式　12：30 − 12：50
講義　12：50 − 13：50
　講師　国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官（併）文部科学省教科調査官　髙橋修一
『豊かなスポーツライフの実現に向けて』
・子供の現状　・学習指導要領における指導内容
・運動部活動の課題
研究発表　14：00 − 15：10
1「状況に応じた動きを効率よく身に付ける子どもの育成」
橋本浩司（名古屋市立道徳小学校）
・５年生を対象とした実践で、「ボールを持っているときの動き」と「ボールを受けるための動き」に分けて、徐々に難易度を上げて、それぞれのつまずきを解決していくことで状況を判断する力を高めていけるようにした実践
2「小学校1年生のボール投げゲーム　―適切なボール選定について考える―」　山本　繁（釜石市立甲子小学校）
・小学校低学年の手の大きさを基に４種類のボール（ドッチボール１号球、ハンドボール at school、教材ハンドボール１号球、教材ハンドボール０号球）から適切性を検討した実践
3「小学校におけるハンドボールの授業実践　―３年間の取り組みを振り返って―」　山田智久（つくば市立上郷小学校）
・３年生、５年生を対象とした実践で投能力の向上をはじめ、ハンドボール教材の価値を検討した実践
4「身体接触を取り入れたハンドボール授業実践の報告　―６年生児童を対象として―」
厚東芳樹（北海道大学）、武田洋樹（札幌市立幌北小学校）
・６年生を対象とした実践で「膝立ち」に着目しながら、身体接触を試みた実践
5「WAI WAI WAI　―子どもの主体的な学びを引き出すゴール型教材―」　信原悦治（岡山市立馬屋下小学校）
・技能差に関わらず、シュートする機会を担保し、さらにゴールの大きさを工夫して成功体験を積ませる実践

実技研修　15：40 − 17：10
　講師　国際ハンドボール連盟 HANDBALL AT SCHOOL 講師
　筑波大学体育系助教・女子ハンドボール部監督　山田永子
　筑波大学体育系助教・男子ハンドボール部コーチ
ネメシュ・ローランド
『HANDBALL at SCHOOL』
・ボールを使ったウォーミングアップ　・さまざまなミニゲーム
交流会　18：00 − 20：00

【7月29日（火）】
授業提案　09：00 − 10：50
「ハンドボールにつなげるゴール型ゲームの指導」（３年）
授業者：信田隆志（つくば市立東小学校）
・本時は投げる力を高める運動を積極的に行い、協力して、ゲームへ参加することをねらいとして行った。鬼の口をゴールとしたユニークな授業提案
「誰でもできるハンドボールの指導」（６年）
授業者：佐藤貴之（つくば市立東小学校）
・本時はパスをつなげ、積極的にシュートをねらってゲームをしようとすることをねらいとして行った。単元計画８時間扱いうち、本時では第１回目の授業であり、初めてハンドボールを行う子供の動きが印象的だった授業提案
講義　11：00 − 12：00
　講師　筑波大学体育系教授　岡出美則
「ボール運動の指導プログラムの変化」
・ボール運動、球技の指導に関わり指摘されてきた一般的な論点
・戦術学習論の提案の変遷と多様化
・戦術学習論を踏まえた研究成果ならびに実践の示唆
閉会式　12：15 − 12：30

報 告

第2回 ユースオリンピック

2014 Youth Olympic Games Nanjing

大会審判　太田智子・島尻真理子

今回、8月18日から27日まで中国の南京で開催されたユースオリンピックに参加してまいりました。日本チームは参加しない中でのノミネートでしたので、日本を代表する気持ちで参加してまいりました。

ユースオリンピックという大きな大会ということで、ホテルやホテル内での対応、送迎、会場、会場内の対応など、とても緊張感のある運営でした。大変丁寧で私たちはしっかり試合に集中することができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

初日にシャトルランテストやミーティングを行い、全体のミーティングが終了後、TDとレフェリーのみでのミーティングを行いました。今回のノミネートは6ペアでした。スイス、フランス、スウェーデン（女子）、ギニア、中国、我々日本です。ギニアのペアは試合前に帰国し、中国の控えペアが代行となりました。内容の焦点はやはり、競技規則第8条項目でした。現在のハンドボールではどのカテゴリーにおいても失格（レッドカード）はどの状況でも考えられる。躊躇せず、常に準備をしておくようにとの指導を受けました。罰則なし、イエローカード、2分間退場、レッドカード、それぞれに7mスローがつく場合に分けて映像で講習が行われました。

世界大会に参加させていただく際のこのミーティングでいつも思うことは、この状況でこの罰則になるということは理解できますが、果たして全ての試合でそれが当てはまるのかどうかと言うことです。割り当てられる試合は様々で男子の試合や女子の試合、30点近くの大差になることや1点を争う試合、何千人の観客が大声援の場合や無観客の場合など状況は様々です。ただルールは一つ。ルールを逸脱するということではなく、一つのルールの中で状況を踏まえた吹笛をすることがレフェリーに求められるところだと感じるところです。大会期間中も試合の組み合わせによって求められるものが違っていました。

1試合目から非常にハードでタフなゲームが続きました。ユースと思えない迫力とスピード、テクニックに驚きを感じると同時に、このステージに立たせていただける喜びと感謝の気持ちをコートの上で表現できるようにと思い臨みました。4試合担当し、その中で指導を受けたことは、まずはステップです。女子の試合はとにかくステップに気をつけると言うことでした。見慣れていた日本や韓国の細かいステップは、選手たちも気がつかずに日々練習しているようで、（特にシュートへつながるステップ）オーバーステップの判定を大変不服としているようでした。しかし、ビデオで見ると確実に歩数は多いのです。身長が低く、歩幅が狭い分、歩数を稼いでしまうのだと感じました。私たちペアにとっては、オーバーステップの判定は今後もずっと課題となって行くと感じています。二つ目は、様々な判定をする際に、強くはっきり大きくスピーディーに行うことでした。例えば、7mの判定をし、7mラインに向かっていく時や罰則を判定し、選手に向かって行く時など、私たちは、のんびりしていたようです。それでは、緊迫感や緊張感、罰則に対する警告にならないと指導を受け実践しました。実践してみて感じたことは、今までより、より引き締まった試合になったと感じました。私たちが今やらなければいけないことは、たくさんあります。それを一つ一つ確実に実践していくこと、言われたことを吸収していくことでしかないと思っています。世界で学んだことを日本で実践し、それで日本の選手たちが、世界で戦う時に困らないように日頃から吹笛をすることが、私たち

に求められていることだと思っています。

最後になりましたが、私たちペアが今大会に参加させていただくにあたり、日本ハンドボール協会をはじめとする大変多くの方々のご尽力とご協力を頂きました。また、今まで先輩方が積み上げてこられた苦労と功績のおかげだと心から感謝いたしております。感謝の心を常に忘れることなく、今後もいろんな舞台へと挑戦して行こうと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

補足説明

ユースオリンピック競技大会は、国際オリンピック委員会（IOC）のジャック・ロゲ会長が 2007 年 7 月開催の総会において提案・了承された、14 歳から 18 歳までのアスリートを対象とした国際総合競技大会です。オリンピックと同じく夏季・冬季に分かれ、それぞれ 4 年ごとに開催されます。2010 年に第 1 回夏季大会がシンガポールで開催され、200 を越す国と地域から約 3600 人の選手が参加、26 競技 201 種目が実施されました。2012 年には第 1 回冬季大会がオーストリアのインスブルックで開催されました。

また、ユースオリンピック競技大会の理想は、スポーツ・文化・教育が一体となったイベントを実現することにあります。文化・教育プログラム（CEP）は、競技会と同等の重要な要素です。

CEP のコンセプト

- 「学び」
  地球規模の課題やオリンピック・ムーブメント、オリンピズム、競技について深く学ぶ
- 「貢献」
  CEP で得た意欲やエネルギーを元に環境の保護など地球規模の問題への取り組みに貢献する
- 「交流」
  他の選手との交流を通じて尊敬の心や友情を育む
- 「称賛」
  様々な国や人々を結びつけるオリンピック精神の力を体験し、オリンピックの意義や文化の多様性を称賛する

CEP の 5 つの教育テーマ

CEP は以下の 5 つの教育テーマに基づき、10 日間の大会期間中に 20 を超える CEP 活動を実施します。

- **オリンピズム**
  オリンピック・ムーブメントの哲学と精神を正しく理解し、オリンピックの意義である「卓越性」「尊重」「友情」を実感し、表現することを学ぶ。
- **能力の開発**
  人生の過渡期での自身の管理や自己開発など、アスリートとしてのキャリアの様々な側面を学ぶ。
- **幸福で健康的なライフスタイル**
  ストレスへの対処法、選手としての正しい生活習慣を身につけ、健康へのリスクを最小限に抑えることで健康的な生活を送る方法を学ぶ。
- **社会的責任**
  自身の卓越性を自覚・理解し、ロールモデルとしての役割やコミュニティを代表する責任を学ぶ。
- **豊かな表現**
  デジタルメディアの利用方法、自身の体験を世界中で共有する方法、芸術を通じた自身の表現方法を学ぶ。

公益財団法人日本オリンピック委員会 HP より一部抜粋

機関誌の回覧・閲覧のお願い

指導者・監督各位

機関誌「ハンドボール」について、チーム所属の選手から「知らない」「見たことがない」「監督には届いているんだろうけど…」といった声を戴いております。是非とも選手の皆さまにもお読みいただければと存じます。ご協力のほど宜しくお願いいたします。

スコアールーム①

第27回全国小学生大会

開催期日：2014年7月31日（木）～8月3日（日）
会場：京都府・京田辺市田辺中央体育館ほか

【男　子】

▼ 予選Aブロック

東海HBS 23（10－2、13－5）8 貝塚バーディーズ
東海HBS 18（9－5、9－4）9 諫早HBC
諫早HBC 12（7－5、5－6）11 貝塚バーディーズ

【順位】①東海HBS（愛知）②諫早HBC（長崎）③貝塚バーディーズ（大阪）

▼ 予選Bブロック

明野北HBスポ少 20（11－7、9－8）15 竹の子会
明野北HBスポ少 25（14－6、11－9）15 川西コジマーズ
竹の子会 26（14－13、12－13）26 川西コジマーズ

【順位】①明野北HBスポ少（大分）②竹の子会（神奈川）③川西コジマーズ（兵庫）

▼ 予選Cブロック

HC宮田 13（8－2、5－6）8 延岡東HBC
HC宮田 18（8－7、10－6）13 流山HBC
延岡東HBC 19（9－9、10－4）13 流山HBC

【順位】①HC宮田（富山）②延岡東HBC（宮崎）③流山HBC（千葉）

▼ 予選Dブロック

安芸高田HBC 21（10－3、11－6）9 能美ジュニアHBC
新小HBC 23（8－6、15－6）12 愛媛ジュニアーズ
安芸高田HBC 21（11－7、10－9）16 新小HBC
能美ジュニアHBC 23（10－5、13－5）10 愛媛ジュニアーズ

【順位】①安芸高田HBC（広島）②新小HBC（京都）③能美ジュニアHBC（石川）④愛媛ジュニアーズ（愛媛）

▼ 予選Eブロック

LITTLEGUTS 10（4－2、6－5）7 CERASUS長尾
土浦HBC 12（4－2、8－3）5 霧島ジュニアHBC
土浦HBC 12（8－4、4－7）11 LITTLEGUTS
CERASUS長尾 17（9－5、8－10）15 霧島ジュニアHBC

【順位】①土浦HBC（茨城）②LITTLEGUTS（山口）③CERASUS長尾（香川）④霧島ジュニアHBC（鹿児島）

▼ 予選Fブロック

三郷HBC 15（8－5、7－5）10 境港マリンバード
山鹿小学校 18（9－2、9－3）5 安堵の里HBC
山鹿小学校 15（6－5、9－5）10 三郷HBC
境港マリンバード 12（6－3、6－6）9 安堵の里HBC

【順位】①山鹿小学校（熊本）②三郷HBC（埼玉）③境港マリンバード（鳥取）④安堵の里HBC（奈良）

▼ 予選Gブロック

総社ジュニア 24（13－1、11－8）9 高知JHC
北陸電力ジュニアブルーロケッツ 24（14－3、10－8）11 府中HBC
北陸電力ジュニアブルーロケッツ 20（7－10、13－9）19 総社ジュニア
府中HBC 19（12－6、7－5）11 高知JHC

【順位】①北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井）②総社ジュニア（岡山）③府中HBC（東京）④高知JHC（高知）

▼ 予選Hブロック

松井ヶ丘小学校HBC 20（8－7、12－7）14 山梨市HBスポ少
松井ヶ丘小学校HBC 23（11－3、12－4）7 潮HBC
山梨市HBスポ少 10（6－5、4－5）10 潮HBC

【順位】①松井ヶ丘小学校HBC（開催地）②山梨市HBスポ少（山梨）③潮HBC（北海道）

▼ 予選Iブロック

かすやブルーガッツ 17（9－6、8－9）15 はしまモアHB少年団
かすやブルーガッツ 23（16－3、7－2）5 エスピロッサJrレイカーズ
はしまモアHB少年団 16（10－5、6－10）15 エスピロッサJrレイカーズ

【順位】①かすやブルーガッツ（福岡）②はしまモアHB少年団（岐阜）③エスピロッサJrレイカーズ（滋賀）

▼ 予選Jブロック

八重瀬クラブジュニア 29（18－2、11－2）4 岩出HB教室
笹川HBC 21（6－5、8－7）15 富岡イーグルス
（3－1延長5－1）
八重瀬クラブジュニア 24（14－11、10－9）20 笹川HBC
富岡イーグルス 20（9－4、11－7）11 岩出HB教室

【順位】①八重瀬クラブジュニア（沖縄）②笹川HBC（三重）③富岡イーグルス（群馬）④岩出HB教室（和歌山）

▼ 決勝トーナメント1回戦

明野北HBスポ少 18（4－6、7－5）15 HC宮田
（3－3延長4－1）
松井ヶ丘小学校HBC 19（13－2、6－9）11 かすやブルーガッツ

▼ 準々決勝

東海HBS 20（13－1、7－4）5 明野北HBスポ少
安芸高田HBC 13（4－6、9－5）11 土浦HBC
北陸電力ジュニアブルーロケッツ 24（10－5、14－5）10 山鹿小学校
松井ヶ丘小学校HBC 19（10－6、9－4）10 八重瀬クラブジュニア

▼ 準決勝

東海HBS 20（10－7、10－3）10 安芸高田HBC
北陸電力ジュニアブルーロケッツ 15（8－4、7－6）10 松井ヶ丘小学校HBC

▼ 3位決定戦

松井ヶ丘小学校HBC 24（12－10、7－9）23 安芸高田HBC
（4－1延長1－3）

▼ 決　勝

東海HBS 16（8－7、8－6）13 北陸電力ジュニアブルーロケッツ

【女　子】

▼ 予選aブロック

東久留米HBC 30（15－3、15－3）6 網津小学校
東久留米HBC 17（10－2、7－4）6 愛媛ジュニアーズ
網津小学校 15（7－5、8－4）9 愛媛ジュニアーズ

【順位】①東久留米HBC（東京）②網津小学校（熊本）③愛媛ジュニアーズ（愛媛）

▼ 予選bブロック

三郷HBC 12（7－2、5－5）7 小松ジュニアHBC
三郷HBC 16（8－3、8－7）10 春日HBC
小松ジュニアHBC 17（10－7、7－7）14 春日HBC

【順位】①三郷HBC（埼玉）②小松ジュニアHBC（石川）③春日HBC（長崎）

▼ 予選cブロック

松井ヶ丘小学校HBC 21（9－2、12－3）5 海津JHC
松井ヶ丘小学校HBC 22（13－1、9－7）8 流山HBC
海津JHC 28（15－10、13－3）13 流山HBC

【順位】①松井ヶ丘小学校HBC（開催地）②海津JHC（岐阜）③流山HBC（千葉）

▼ 予選dブロック

神森小HBC 17（9－0、8－5）5 函館高盛HBS
真弓クラブ 11（6－2、5－4）6 CERASUS長尾
神森小HBC 17（10－0、7－6）6 真弓クラブ
函館高盛HBS 13（9－3、4－3）6 CERASUS長尾

【順位】①神森小HBC（沖縄）②真弓クラブ（奈良）③函館高盛HBS（北海道）④CERASUS長尾（香川）

▼ 予選eブロック

塩山HBスポ少 11（7－6、4－4）10 大浜キッズ
日岡HBスポ少 15（7－2、8－5）7 IDBスポーツクラブ
日岡HBスポ少 24（12－3、12－3）6 塩山HBスポ少
IDBスポーツクラブ 15（7－6、8－7）13 大浜キッズ

【順位】①日岡HBスポ少（大分）②塩山HBスポ少（山梨）③IDBスポーツクラブ（山口）④大浜キッズ（大阪）

▼ 予選fブロック

笹川HBC 23（14－3、9－2）5 高知JHC
新小HBC 14（6－1、8－4）5 境港マリンバード
新小HBC 12（5－2、7－5）7 笹川HBC
境港マリンバード 29（11－3、18－1）4 高知JHC

【順位】①新小HBC（京都）②笹川HBC（三重）③境港マリンバード（鳥取）④高知JHC（高知）

▼ 予選gブロック

HC春吉Jr 21（11－5、10－5）10 HC向原
湊チャフリーズ 25（11－3、14－3）6 きさきネクサス
湊チャフリーズ 20（8－6、12－7）13 HC春吉Jr
きさきネクサス 18（13－2、5－3）5 HC向原

【順位】①湊チャフリーズ（福井）②春吉Jr（福岡）③きさきネクサス（兵庫）④向原（広島）

▼ 予選hブロック

霧島ジュニアHBC 11（1－3、10－4）7 青葉台HC
東海HBS 16（10－4、6－6）10 岩出HB教室
霧島ジュニアHBC 13（4－1、9－4）5 東海HBS
青葉台HC 13（7－7、6－5）12 岩出HB教室

【順位】①霧島ジュニアHBC（鹿児島）②東海HBS（愛知）③青葉台HC（茨城）④岩出HB教室（和歌山）

▼ 予選iブロック

天城ジュニアHBC 20（10－1、10－1）2 富岡ラビッツ
比美乃江HBC 14（7－1、7－5）6 延岡東HBC
比美乃江HBC 18（8－2、10－5）7 天城ジュニアHBC
延岡東HBC 18（11－6、7－5）11 富岡ラビッツ

【順位】①比美乃江HBC（富山）②天城ジュニアHBC（岡山）③延岡東HBC（宮崎）④富岡ラビッツ（群馬）

▼ 決勝トーナメント1回戦

松井ヶ丘小学校HBC 6（3－3、3－1）4 三郷HBC

▼ 準々決勝

東久留米HBC 9（3－4、6－4）8 松井ヶ丘小学校HBC
神森小HBC 21（10－6、11－7）13 日岡HBスポ少
新小HBC 11（6－5、5－4）9 湊チャフリーズ
比美乃江HBC 15（4－4、11－3）7 霧島ジュニアHBC

▼ 準決勝

神森小HBC 17（7－3、10－5）8 東久留米HBC
比美乃江HBC 12（4－1、8－3）4 新小HBC

▼ 3位決定戦

東久留米HBC 18（8－7、6－7）17 新小HBC
（1－0延長3－3）

▼ 決　勝

神森小HBC 15（7－2、8－5）7 比美乃江HBC

スコアールーム②

第22回全日本マスターズ大会

開催期日：2014年8月1日（金）～8月3日（日）
会場：沖縄県・浦添市民体育館ほか

【男子交流型】

▼ 男子あグループ

安威川クラブ 11（5－2、6－3）5 三六会
安威川クラブ 14（8－3、6－4）7 松門会
安威川クラブ 21（10－4、11－3）7 神楽坂シニア
三六会 12（6－3、6－8）11 松門会
三六会 17（8－5、9－3）8 葵クラブ
松門会 21（12－5、9－6）11 葵クラブ
松門会 15（5－6、10－4）10 神楽坂シニア
葵クラブ 26（10－4、16－11）15 神楽坂シニア

▼ 男子いグループ

兵庫選抜 18（11－6、7－1）7 Team NEXT
兵庫選抜 22（13－3、9－3）6 秋桜柏
兵庫選抜 23（12－5、11－1）6 ニライクラブ
Team NEXT 14（7－7、7－5）12 ATF-B
Team NEXT 21（13－1、8－8）9 秋桜柏
ATF-B 15（7－3、8－4）7 LBCアルバトロス
ATF-B 15（6－2、9－4）6 ニライクラブ
LBCアルバトロス 17（9－5、8－7）12 ニライクラブ
LBCアルバトロス 10（3－2、7－1）3 秋桜柏

▼ 男子うグループ

山口選抜 19（11－4、8－4）8 海自桜錨会
山口選抜 17（8－5、9－6）11 静岡川崎マスターズ
山口選抜 16（7－1、9－2）3 HCみやび
岐阜MHC-A 16（7－5、9－6）11 海自桜錨会
海自桜錨会 12（2－7、10－5）12 静岡川崎マスターズ
岐阜MHC-A 17（6－3、11－6）9 駒沢クラブ
岐阜MHC-A 13（6－2、7－2）4 HCみやび
静岡川崎マスターズ 13（6－2、7－2）4 駒沢クラブ
駒沢クラブ 16（8－2、8－2）4 HCみやび

▼ 男子えグループ

摂津倶楽部A 9（6－5、3－4）9 横浜平沼マスターズ
摂津倶楽部A 13（9－4、4－5）9 ガンバ花クラブ
摂津倶楽部A 13（6－6、7－3）9 北谷クラブ
横浜平沼マスターズ 19（10－6、9－6）12 ATF-A
横浜平沼マスターズ 19（8－8、11－3）11 北谷クラブ
ガンバ花クラブ 24（12－3、12－5）8 ATF-A
ガンバ花クラブ 18（8－3、10－7）10 北谷クラブ
ATF-A 13（6－2、7－4）6 北谷クラブ

【女子交流型】

▼ 女子あグループ

フェニーチェ 11（7－4、4－2）6 東風平クラブ
フェニーチェ 16（7－7、9－0）7 ギャロップレディース
フェニーチェ 18（7－4、11－4）8 樫さんクラブ
東風平クラブ 8（2－2、6－3）5 ギャロップレディース
東風平クラブ 13（8－6、5－3）9 名古屋中部ドリームズ
東風平クラブ 16（8－7、8－8）15 樫さんクラブ
名古屋中部ドリームズ 15（8－1、7－4）5 樫さんクラブ
ギャロップレディース 10（5－3、5－5）8 名古屋中部ドリームズ

▼ 女子いグループ

徳山クラブANE 19（9－7、10－3）10 瀬戸内レディース
徳山クラブANE 15（9－2、6－4）6 BABAR's
徳山クラブANE 18（10－1、8－4）5 あばらぎ
風見鶏 14（9－8、5－3）11 BABAR's
風見鶏 14（7－3、7－5）8 あばらぎ
風見鶏 13（8－4、5－7）11 瀬戸内レディース
あばらぎ 7（5－4、2－2）6 BABAR's
あばらぎ 14（5－2、9－4）6 瀬戸内レディース

▼ 女子うグループ

マミーズ 8（3－2、5－2）4 摂津倶楽部K
マミーズ 11（4－3、7－2）5 モッピークラブ
マミーズ 14（6－3、8－4）7 スマイルGIFU
マミーズ 11（6－3、5－1）4 武蔵野クラブ
摂津倶楽部K 9（3－3、6－4）7 モッピークラブ
摂津倶楽部K 8（4－4、4－1）5 スマイルGIFU
モッピークラブ 14（9－5、5－3）8 武蔵野クラブ
スマイルGIFU 13（8－3、5－1）4 武蔵野クラブ

【男子順位決定型】

▼ 男子１回戦

小松オールウェイズ 14（8－2、6－4）6 チーム46
白石クラブ 17（8－8、9－4）12 シネマクラブ

▼ 男子２回戦

GHBP ARES 13（9－4、4－4）8 小松オールウェイズ
HC330 18（9－3、9－6）9 49's
沖縄教員 不戦勝 神楽坂フェニックス
コザOB 12（7－2、5－4）6 アズーロ
下松アダルツ 23（9－2、14－4）6 宮古島
蔵前如水会 14（7－7、7－6）13 部屋's
コザクラブ 12（7－5、5－5）10 GG's
オールドフェイス 18（10－7、8－8）15 白石クラブ

▼ 男子準々決勝

GHBP ARES 14（10－4、4－5）9 HC330
沖縄教員 17（7－6、10－8）14 コザOB
下松アダルツ 18（7－7、11－5）12 蔵前如水会
オールドフェイス 16（9－5、7－6）11 コザクラブ

▼ 男子準決勝

GHBP ARES 29（9－5、20－10）15 沖縄教員
下松アダルツ 22（12－4、10－4）8 オールドフェイス

▼ 男子３位決定戦

沖縄教員 16（9－6、7－9）15 オールドフェイス

▼ 男子決勝

GHBP ARES 19（12－8、7－7）15 下松アダルツ

【女子順位決定型】

▼ 女子１回戦

御座姐 15（7－1、8－3）4 SCNK35
富山エンジェルス 12（7－4、5－3）7 でいご
かよちゃんず 15（8－5、7、3）8 台北女子手球隊
MLN39 15（7－4、8－8）12 NEWフェイス

▼ 女子準決勝

御座姐 9（5－4、4－2）6 富山エンジェルス
MLN39 13（6－3、7－4）7 かよちゃんず

▼ 女子３位決定戦

富山エンジェルス 13（7－2、6－3）5 かよちゃんず

▼ 女子決勝

御座姐 13（5－5、8－3）8 MLN39

スコアールーム③

第19回ジャパンオープンハンドボールトーナメント

開催期日：2014年8月9日（土）～8月12日（火）
会場：和歌山・和歌山市立河南総合体育館ほか

【男子】

▼ １回戦

長崎社中（長崎） 36（16－8、20－13）21 下松クラブ（山口）
HC彦根（滋賀） 30（14－14、16－13）27 小松クラブ（石川）
FST（東京） 23（10－8、13－12）20 FALCOM（開催地）
HC熊本（熊本） 33（16－9、17－14）23 山形新体会ハンドボールクラブ（山形）
トヨタ紡織九州（佐賀） 28（14－10、14－13）23 EHC（愛媛）
大同クラブ（愛知） 26（13－7、13－9）16 S.H.C（神奈川）
HC同志社（京都） 35（15－13、20－11）24 ラージェスト（東京）
HC岩手（岩手） 34（15－12、19－15）27 香川クラブ（香川）
HC岐阜（岐阜） 32（11－13、21－9）22 日新製鋼（広島）
埼玉教員クラブ（埼玉） 26（14－11、12－11）22 北志クラブ（福井）
HC和歌山（和歌山） 54（27－6、27－9）15 HC福島（福島）
FOG（千葉） 43（23－10、20－12）22 エルムクラブ（北海道）
那覇西クラブ（沖縄） 31（12－10、19－16）26 HC岡山（岡山）
氷見クラブ（富山） 33（16－8、17－13）21 チーム群馬（群馬）
SOCIO OSAKA（大阪府） 29（11－13、18－9）22 甲府クラブ（山梨）
HONDA（三重） 40（21－7、19－9）16 チーム楽南（秋田）

▼ ２回戦

長崎社中 32（16－8、16－11）19 HC彦根
HC熊本 34（16－15、11－12）32 FST
（3－2延長4－3）
トヨタ紡織九州 28（11－9、17－9）18 大同クラブ
HC岩手 34（16－12、11－15）33 HC同志社
（4－3延長3－3）
HC岐阜 33（15－15、18－11）26 埼玉教員クラブ
FOG 24（11－11、13－11）22 HC和歌山
氷見クラブ 24（12－11、12－6）17 那覇西クラブ
HONDA 25（13－8、12－8）16 SOCIO OSAKA

▼ 準々決勝

長崎社中 27（14－9、13－14）23 HC熊本
トヨタ紡織九州 32（11－11、21－18）29 HC岩手
FOG 29（15－15、14－11）26 HC岐阜
HONDA 22（10－10、12－8）18 氷見クラブ

▼ 準決勝

長崎社中 30（16－12、14－8）20 トヨタ紡織九州
FOG 28（16－6、12－10）16 HONDA

▼ ３位決定戦

HONDA 22（10－11、12－7）18 トヨタ紡織九州

▼ 決勝

FOG 21（8－13、13－7）20 長崎社中

【女子】

▼ １回戦

香川銀行T・H（香川） 42（24－7、18－8）15 シャトレーゼHC（山梨）
JJ GANG（福井） 25（12－11、13－8）19 （開催地）
京都クラブ（京都） 43（22－10、21－14）24 HC秋田w（秋田）
HC長崎（長崎） 33（17－14、16－9）23 サンライズ・ひのき（群馬）
HC和歌山（和歌山） 45（23－3、22－4）7 北海道HC（北海道）
HC岡山（岡山） 31（13－8、18－11）19 かながわガピアーノ（神奈川）
シーコルズ（沖縄） 33（18－9、15－12）21 白梅三英美会（岩手）
ナデシコクラブ（奈良） 29（20－6、9－14）20 MMC（愛知）

▼ 準々決勝

香川銀行T・H 33（19－6、14－10）16 JJ GANG
京都クラブ 17（7－9、10－5）14 HC長崎
HC和歌山 27（15－11、12－8）19 HC岡山
シーコルズ 27（11－10、11－12）26 ナデシコクラブ
（1－0延長1－2）（3 7mTC 2）

▼ 準決勝

香川銀行T・H 33（20－5、13－10）15 京都クラブ
HC和歌山 35（19－6、16－9）15 シーコルズ

▼ ３位決定

京都クラブ 25（12－14、13－6）20 シーコルズ

▼ 決勝

香川銀行T・H 33（15－9、18－12）21 HC和歌山

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【宮　城】大河原浩気【埼　玉】岡部克則、西山逸成【東　京】佐藤佳子、吉田祐子【山　梨】栗原富貴子【愛知】笹野邦雄【岐　阜】中島明美【大　阪】望月滋乃、舟崎智芳、久保幸子、白鳥貴子【兵　庫】高祖加奈子、柿木國夫【広　島】両徳良樹【福　岡】下田昭弘【佐　賀】久保田秀光【熊　本】葦原大三【鹿児島】蔵元恵子

【10月の行事予定】

【会議】

10月11日(土)　本部長会議

10月15日(水)　第１回全国理事長会

【大会】

10月16日(木)～20日(月)

第69回国民体育大会…………（長崎県・佐世保市）

10月22日(水)～27日(月)

第18回日韓スポーツ交流…（受入/女子）（佐賀県）

10月25日(土)～

第39回日本リーグ………………………（全国各地）

HAND BALL CONTENTS Oct.

For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。

株式会社 モルテン 東京都墨田区横川五丁目5-7

www.molten.co.jp

（公財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』第五四六号

平成二十六年九月二十六日印刷
平成二十六年十月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 〇三ー三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円